

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
健康論	2年・後期	講義	15時間 (1単位)	栗岡あけみ
実務経験の概要	幼稚園に3年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせて頂きました。(栗岡)			
授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもへの積極的な健康指導を学んでいきます。授業の進め方は、講義形式を主として進め、適宜、グループワークやディスカッション等を行います。必要に応じて追加資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示しています。			
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体を基礎を作る重要な時期である。子どもが健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもをどのように捉え、どのような内容についてで、どのようなように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関わり、子どもの健康状態を評価する能力を養うことを目的とする。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようにします。 2. 乳幼児期の発育・発達について理解できるようにします。 3. 乳幼児期における運動の意義について理解できるようにします。 4. 乳幼児期の基本的な生活習慣と健康について理解できるようにします。 5. 乳幼児期の食育について理解できるようにします。 6. 乳幼児期における健康・安全の確保について理解できるようにします。 			
テキスト	健康論／豊岡短期大学通信教育 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレール館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレール館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレール館			
参考書	授業内で適宜紹介する。			
教材の方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。			
成績評価基準	受講態度20%；保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。 課題30%；補助評価シート(ワークシート)を用いたプレゼンテーションの内容とその姿勢を基準とする。 単位認定試験50%；授業で取り扱った内容について、保育者としての観点から深く論じることができているかどうかを基準とする。 上記3領域の配分により100点満点で評価し、60点以上を合格とすること。			
受講の心構えとメッセージ	日ごろから乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、現代の子どもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。 また、心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきを図りながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。 予習：毎回授業内で予習課題を出します。図書館を利用して調べて授業準備をしましょう。(所要時間90分から120分) 復習：毎回授業内で復習課題を出します。授業内容や新聞、図書館を利用して述べられるようにしましょう。(所要時間90分から120分)			
オフィスワーク	初回の授業時に曜日と時間をお伝えしますが、週1回、90分をオフィスワークとしていきますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。			
その他の事項	必要に応じて参考になるプリントを配布しますので、フアイルしておいてください。講義の終わりに次回までの予習する内容と講義の振り返り内容などを示します。予習復習を行って講義にのぞんでください。			

授業内容進捗表

1回	<乳幼児と健康> 健康の概念を理解と領域「健康」における健康の考え方について
2回	<乳幼児期の発育・発達> 乳幼児期の体の発達の特徴について
3回	<乳幼児期における運動の意義> 運動あそびと保育者の関わりについて
4回	<乳幼児期の基本的な生活習慣と健康> 乳幼児期の生活習慣と運動機能の発達について
5回	<乳幼児期の食育1> 食育とは何か、現代の子どもの食生活の問題点について
6回	<乳幼児期の食育2> 朝食の役割と食物アレルギーについて
7回	<乳幼児期における・安全の確保1> 安全管理と安全教育、事故防止の指導体制について
8回	<乳幼児期における・安全の確保2> ケガへの対応と処理、災害への備えについて
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
【定期試験】(有) 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「健康」	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	栗岡あけみ
実務経験の概要	幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	乳幼児期の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、実践事例を取り上げ学ぶ。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼稚園認定こども園教育・保育要領」での記述を踏まえ、指導案作成並びに模擬保育を通して、保育者に必要とされる教材の活用法について、討議や実践を行い、乳幼児の育ちを支える保育者の役割について学びます。授業の進め方は、汎用的技能の育成に向けて、グループディスカッションや課題解決・探求学習等にて、健康論の学びを深めるとともに、白らの考えをレポートやプレゼン等にて表現します。			
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体を築く重要な時期である。子どもを健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもをどのように育て、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、適切な指導方法を身に付けることを目的とする。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための指導および援助ができるようにします。 2. 運動遊びを理解し、発達に合わせた適切な内容を選ぶことができるようになります。 3. 健康に関する内容について、指導案を作成することができるようになります。 4. 健全な発育発達を阻害している問題を認識・考察し、健康維持の生活についてアプローチしようとする力を身につけることができるようになります。 5. 安全教育を理解し、管理および指導の方法が分かるようになります。 			
テキスト	幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレール館 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレール館 幼稚園認定こども園教育・保育要領解説/内閣府、文部科学省、厚生労働省/フレール館			
参考書	講義内で適宜、知らせる。			
そのほかの方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。			
成績評価基準	受講態度 20%：領域「健康」を理解しようとする意欲的に受講し、質疑応答を積極的に行う態度、保育者を目指すものとして、グループワークで自分の意見や考えを述べながら、グループの考えを1つにまとめようとする態度などを基準とする。 課題 30%：発達に合った指導案作成、指導案を用いた模擬保育発表などの姿勢を基準とする。 単位認定試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じていることができるかどうかを基準とする。 上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。			
そのほかの講義との関連性	講義内容を実習に応用するつもりで学んでください。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼稚園認定こども園教育・保育要領について基本的なことを復習しておくください。乳幼児が参加する映画を保育者の立場で視聴することを心がけましょう。グループワークは、積極的に参加し、主体的に取り組みしましょう。さらには、自身の健康管理には十分責任をもちましょう。 子習：要領、指針、保育要領の領域「健康」を毎回熟読し、類似点や相違点を理解しておいてください。(所要時間90分から120分) 復習：毎回授業内で復習課題を提示します。授業内容や初回、凶雷館を利用し、整理して述べられるようにしてください。(所要時間90分から120分)			
そのほかの授業	初回の授業時に曜日と時間をお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていただきますので、自由にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくださると確実です。 必要に応じて参考になるプリントを配布しますので、ファイルしておいてください。			

授業内容進捗表

1回	<領域「健康」の意味(保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼稚園認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解)、保育の意義と児童観> こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」
2回	<乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達> 発達過程に応じた保育の基本
3回	<子どもこのころの健康、こころの発達とストレスのサイン> 子どもこのころの健康と虐待
4回	<基本的な生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点> 食育と健康との関わり
5回	<子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割> 幼児の遊びを引き出す環境づくり
6回	<安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練> ケガや病気などの体調異常に対する処置法
7回	<健康と自然環境、園外保育の活動内容> 園外保育の留意点
8回	<領域「健康」のまとめ> 保幼小連携について
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
【定期試験】(有)・無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
環 境 論	2年・前期	講義	15時間 (1単位)	栗 岡 あけみ
実務経験の概要	幼稚園に30年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授 業 概 要	<p>子どもを取り巻く環境は様々であり、その中で子どもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、環境と子どもの発達との関係性を考えていく。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要があります。そのために様々な環境との出会いに気づき、子どもの生活に視点をおきながら学びを深めていきます。授業の進め方は、双方向授業(グループワーク、ディスカッション、発表全体交流、実技の模擬保育と環境構成に関する作品づくり)と講義型授業(ノートに記載、実技指導も毎回行う)を行います。</p>			
授 業 目 的	<p>乳幼児期の子どもの発達の発達と環境について考えてみることににより、乳幼児の保育を展開していくときにどのような保育環境が必要となるのか、また、そうした保育環境はどのようなようにすれば構成していけるのかについて学んでいく。また、乳幼児期の子どもの通う保育施設における環境の大切さについても具体的に考えていく。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性が理解できるようにします。 2. 環境を通して行う保育の意味が理解できるようにします。 3. 保育環境のデザインを実践できるようにします。 4. 様々な環境との出会いを理解できるようにします。 			
予 備 知 識	<p>環境論/豊岡短期大学通信教育部 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレール館 2018年 幼児保育施設認定ことも園教育・保育要領解説/内閣府/フレール館 2018年 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレール館 2018年 秋出卓代表編 保育内容「環境」(株みらい)</p>			
授 業 方 法	レポーターは、授業内容の要点のまとめです。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい内容については、再度授業内で取り上げ説明していきます。			
課 程 評 価	<p>受講態度20%：保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とする。 課題30%：レポーターや保育環境デザインなどの取り組み意欲や内容を評価する。 定期試験50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかを基準とする。</p>			
メ ッ シ ュ の 構 成 と	<p>予習：テキストの授業内容に該当する箇所事前に目を通し予習して、理解が深まるように準備して授業に臨んでください。(所要時間90分から120分) 復習：授業後には、テキストやプリントを見直し復習し、授業での学びを身に付けてください。身近な自然について、日常的に興味・関心をもち、環境にかかわる力が育つことを期待します。(所要時間90分から120分)</p>			
ア オ フ ィ ス	<p>初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスアワーとしていますので、事前にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてください。</p>			
そ の 他	<p>教科書を使用します。忘れないようにすること。必要に応じて資料を配付します。ファイルを事前準備してください。</p>			

授業内容進捗表

1 回	<環境の定義> 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味
2 回	<領域「環境」の位置づけ> ねらい・内容 内容の取扱 指導計画
3 回	<保育における環境(保育と環境)> 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境
4 回	<幼児の身近な環境との関わり> 室内・室外 文字・標識・数量・図形
5 回	<行事> 1. 季節の行事 2. 地域の行事
6 回	<地域・施設との関わり> 各施設の訪問 国際理解
7 回	<地域探検> 住んでる町を知ろう
8 回	<保育者としての専門性の向上> 専門性の向上と保育マインド
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
	【定期試験】(有)・無

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「環境」	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
実務経験の概要	幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「社会環境」の中で生きていく。様々な生活経験をを通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにとどう関わるかを中心に、保育現場における具体的な事例を通じて学習していきます。また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいきます。授業の進め方は、汎用的な技能の育成に向けて、グループディスカッションや課題解決・探究学習等にて、環境論の学びを深めるとともに、自らの考えをレポートやプレゼン等にて表現します。			
授業科目の目的	乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることにより、より良い保育を実践する重要性を認識する必要がある。また保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学ぶ。環境を通して行う保育の意味について考えていく。			
学習成果	1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解することができるようにします。 2. こどもを取り巻く様々な環境(人的・物的・自然・社会・文化)について理解し、関心をもちとができるようにします。 3. 保育者の役割を常に考え、保育を実践できる力をつけることができるようになります。			
テキスト	幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレール館 2018年 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレール館 2018年 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府/フレール館			
参考書	「新子どもと環境」-理論編 小田豊監修 (三見書房) (ISBN:9784783080022) 「新子どもと環境」-実践・実践編 小田豊監修 (三見書房) (ISBN:9784783080039) 「子どもと環境から考える保育内容」大橋喜美子・三宅茂夫編著 (北大路書房) (ISBN:9784762826917)			
の方法	授業は、前回の授業のフィードバックからはじめていきます。特に、様々な環境の振り返りを行い、さらに各日の復習で深まった点の発表を行い、教員がさらに補足します。			
成績評価	受講態度20%：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする。 課題50%：グループワークでの発表内容を基準とする。 定期試験50%：授業の内容を踏まえ、保育者を日指す上での体験を生かし、解答することができるところを基準とする。			
受講の心構え	この科目の授業形態は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。保育者として、子どもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。こどもの立場に立つて指導することを念頭におき、ひとつの事例に対して自分ならばどのような環境構成を行い誘導・指導するか、できるかかを常に具体的に考えて積極的に取り組んでください。日常的に、社会事象、天体、身近な自然事象、人のかかわり方の様子について興味をもち、よく観察して保育の眼を養う努力をしてください。毎回授業前には、テキスト種別「環境」を熟読して予習し、授業後には、配付資料に目を通し復習することが大切です。(予習復習には90分から120分の学習時間を要します)			
オフィスワーク	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回、90分をオフィスワークとしていきますので、前にお越しください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。			
その他の事項	資料を配付します。ファイルを準備しておくこと。			

授業内容進捗表

1回	<環境とは> 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味
2回	<領域「環境」の位置づけ> ねらいと内容 指導上の留意点と指導計画、評価の考え方
3回	<身近な環境の構成(指導案の構成と作成)> 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境
4回	<保育における環境の重要性と小学校との連続性> 好奇心・探究心 思考力の芽生え
5回	<保育環境のデザイン> 室内環境における模擬保育と振り返り1 室外環境における模擬保育と振り返り2
6回	<保育者の3つの役割> 環境要素の一つ 保育実践から見えるコーディネーター的役割 こども同上のかかわりありから考える保育構想
7回	<さまざまな環境との出会い> 標識、文字との出会い 数量と図形・ものの性質との出会い
8回	<こどもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題(小学校との連携など)> まとめ
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
【定期試験】(有)・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育原理	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	國光みどり
実務経験の概要	<p>幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。</p>			
授業概要	<p>現代社会において子どもを取り巻く状況は日々複雑化しています。平成30年度からそれらを踏まえて新しい保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼児連携型認定こども園教育・保育指針保育が施行されて保育の現場は大きく変化しています。保育者はこのような状況を十分に理解した上で信念をもち保育を行っていく必要があります。そのためには現在の保育の制度を理解することにも、保育の基本(理念・役割・歴史・実践等)を学び保育についての幅広い視野を養うことが重要です。本講義では保育者がそれぞれを踏まえ現代におけるよりよい保育のあり方を考え実践できる基礎力を養います。授業は講義形式が基本です。実際の保育の場や子どもの姿などについてDVDを視聴しイメージを広げながら保育の原理を学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育原理では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基礎的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求します。現代社会における子どもを取り巻く状況や課題について考察し、子どもや保護者向き合うことができ知識を養うとともに、乳幼児の特性に応じた保育を実践するための基礎的な力を養うことを本講義の目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解することができるようになります。 2. 保育所に関する法令及び制度を理解することが出来ます。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解し説明することが出来ます。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解し、現在の保育に重ね合わせて考えることが出来ます。 5. 保育の現状と課題について意識をもち、現代における保育のあり方を論じることが出来るようになります。 			
テキスト	<p>保育原理／栗岡あけみ・和田真由美著／豊田短期大学 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレール館／ISBN:978-4-577-81448-2NDC376 プリントを必要に応じて配布します。</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレール館／ISBN:978-4-577-81448-2NDC376 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレール館／ISBN:978-4-577-81449-9NDC376</p>			
評価の方法	<p>レポート課題は次週以降、理解が不十分な個所については教員が随時補足説明をしていきます。</p>			
基礎評価	<p>授業態度10%、レポート提出40%、定期試験50%により数値化して総合的に評価します。</p>			
受講の心構え	<p>予習としては、次のテーマについて参考文献等に日を通してしておく必要があります。それには90～120分程度の学習時間を要します。 復習としては授業の振り返りレポートを丁寧に作成し、重要項目をしっかり押さえ把握します。それには90～120分程度の学習時間を要します。レポートは必ず提出してください。毎時間の講義を大切に受講してください。</p>			
オフィスワーク	<p>初回の授業の中で曜日・時間帯等をお伝えします。90分をオフィスアワーとします。不在の場合もあり、事前に「melly」で予約してください。</p>			
その他				

授業内容進捗表

1回	<p><保育とは何か> 保育の意義と目的</p>
2回	<p><保育者・保育施設に求められる役割1> 子どもの最善の利益を考慮した保育 理解したことを実際の行動につなぐ</p>
3回	<p><保育者・保育施設に求められる役割2> 保育の社会的意義</p>
4回	<p><保育所保育指針における保育の方法1> 保育の目標と内容 養護と教育の一体性</p>
5回	<p><保育所保育指針における保育の方法2> 環境による保育</p>
6回	<p><保育の過程> 子どもに応じた保育の方法や形態</p>
7回	<p><保育の計画1> 保育における計画の意義と変遷</p>
8回	<p><保育の計画2> 計画・実践・記録・省察・改善の循環</p>
9回	<p><保育に関する法令及び制度> 保育所に関する法令と制度</p>
10回	<p><保育の思想と歴史の変遷1> 欧米の保育思想の展開と保育施設の変遷</p>
11回	<p><保育の思想と歴史の変遷2> わが国における保育の歴史の変遷</p>
12回	<p><保護者との連携と子育て支援> 保護者に対する子育て支援・連携の方法</p>
13回	<p><保育におけるさまざまな配慮> 個別の配慮と集団への配慮と具体的な方法</p>
14回	<p><保育の場における子育て支援> 子育て支援に関する基本的事項</p>
15回	<p><現代における日本の保育の現状と課題> 諸外国の保育の現状と課題 日本の保育の現状と課題</p>
【定期試験】 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの食と栄養	2年・前期	演習	30時間 (2単位)	日下部恵子(講師キヤンパス) 大澤みどり(講師キヤンパス)
実務経験の概要	日下部恵子...元大学病院に勤務。実務経験、栄養調査・研究をもとに、健康、疾病と栄養・食生活などについて講義する。 大澤みどり...学校栄養職員、栄養教諭(現職)として小学校、中学校で41年の実務経験があります。			
授業概要	こどもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基礎が形成され、その後の心と身体の健康に大いに影響を及ぼす。健康な生活の基本として、食生活の意義や栄養、食品に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解を深める。また、演習・実習を通して、保育者として食生活の支援や食育に必要となる実践力を身に付ける。			
授業科目の目的	栄養や食生活の基本的知識を習得し、子どもに発達段階、状況に応じた栄養と食生活を理解する。食育の基本と内容及び食育のための環境と地域社会との連携について理解する。家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学び、食生活のあり方を理解する。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。食育の演習を通して、食と栄養の理解を深め、保育・教育の場に役立つ食育の実践力を習得し、子どもや保護者への食生活の支援ができる応用力を培う。			
学習成果	1. 健康な生活の基礎として、食生活の意義や栄養・食品に関する基本的知識を理解し、保育現場で応用できる。 2. 子どもの発達段階に応じた食生活や課題を理解し、発達段階に応じた食生活の支援ができる。 3. 健康的な食生活とは何かを理解し、実際の食生活で実践できるようになる。 4. 食育の重要性を理解し、日常の保育の中で食育の実践ができる。 5. 食物アレルギー対応や食中毒の予防などの正しい知識を習得し、明確な配慮ができる。			
テキスト	堤ちはる、十井正子編著：「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」萌文書林、2021 ISBN-978-4-89347-154-3			
参考書	飯塚美和子、他編：「最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—」学建書院、2020 ISBN 978-4762468414 岩田 幸子、寺嶋 昌代 編：「新・子どもの食と栄養」みらい、2021 ISBN 9784860155322 小川 雄二 編著：「子どもの食と栄養演習(第5版)」建帛社、2020 ISBN 978-4767951287 新しい食生活を考える会 編著：「食品解説つき8訂準拠ビジュアル食品成分表」大修館書店、2021 ISBN 978-4469270129 他、授業時に適宜紹介する。			
の方法	授業中の質問は、授業時間内で口頭で説明します。 課題レポート・提出物については、確認して添削・講評後、返却します。質問は適宜対応します。 小テストの結果は、次週の授業で返却し、必要に応じて解説します。			
評価	定期試験(50%)、小テスト(20%)、演習課題・レポート提出(10%)、実習・演習の取り組み態度・レポート提出(20%)			
学習の留意点	子どもの食と栄養は、幼稚園や保育所、施設において正確な知識と実践的な対応が求められます。毎回の授業に真剣に取り組んでください。			
アクセス	初回の授業時に曜日、時間を連絡します。			
その他	授業外学習として、教科書で予習・復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するように取り組みます。			

授業内容進捗表

1回	オリエンテーション/子供の健康と食生活の意義 授業のねらい、概要/子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題
2回	子どもの発育・発達と食生活 心身発育、精神機能、運動機能・食べる機能、消化吸収機能の発達と栄養・食生活
3回	栄養に関する基礎知識(1) 栄養素の種類と働き(炭水化物、脂質、タンパク質)
4回	栄養に関する基礎知識(2) 栄養素の種類と働き(ビタミン、ミネラル(無機質)、水分)
5回	栄養に関する基礎知識(3) 日本人の食事摂取基準の意義と活用、献立作成、調理の基本、食事バランスガイド、食生活指針
6回	子どもの発育・発達と食生活—授乳期の食生活、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 授乳期の栄養と食生活、乳児期の心身の発達と食生活の関わり、乳児期の乳食(母乳・母乳栄養)
7回	子どもの発育・発達と食生活—乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 乳食栄養(人工栄養、混合栄養)、離乳の意義とその実践
8回	子どもの発育・発達と食生活—乳児期の心身の発達と食生活 乳児期の心身の発達と食生活の関わり、幼児期の食生活の特徴、間食の意義と実践
9回	こどもの発育・発達と食生活—学童期・思春期の心身の発達と食生活 学童期・思春期の心身の発達と食生活、学童期・思春期の栄養上の問題と健康への対応、食育
10回	食育の基本と内容 乳幼児期の食育の内容と基本および実践、幼児期の食育と教材(媒体)
11回	【演習】乳幼児期の食育、食育実践
12回	【実習】幼児期の食育、食育実践
13回	家庭や児童養護施設における食事と栄養 家庭における食生活のあり方、児童養護施設給食の基本方針、保育所給食
14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 子どもの疾病の特徴と食生活、食物アレルギーのある子どもへの対応
15回	子どもの食と栄養についてまとめ、考察
【定期試験】(有) 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当 教 員
こどもの指導法「音楽表現」	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	(豊岡)杉山 敦上・大江 大谷・松本 (姫路)杉山・岡光
実務経験の概要	岡光：幼稚園に14年、幼児発達心理認定こども園に2年勤務した経験があります。この間クラス担任主任2年、専任副園長4年、園長2年に在任。			
授業概要	感性と表現に関する領域「表現」における幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解することにも、音楽を通して様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解します。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについてアノ基礎技能・弾きうたいの基礎実技の修得を目指します。後期は弾きうたいを中心に課題曲の理解・指導法の修得と弾きうたいを実践し、より保育実践をイメージした音楽表現活動の知識を広げ実践力の育成を目指します。			
授業科目の目的	感性と表現に関する領域「表現」における「音楽表現」に重点を置き、音楽表現活動の理解と保育者として必要な知識や技能を修得することを目的とします。また、感性と表現に関する領域「表現」の全体目標への到達を日指し、保育の場をより具体的にイメージしながらまなびます。子どもたちを楽しく豊かに音楽表現活動に導くことができる保育者としての実践力を育成するために、音楽表現の理解と実践を交えながら意欲的に修得することを目的とします。			
学習成果	1. 感性と表現に関する領域「表現」を理解することにも、保育における音楽表現の意義や役割を理解しながら、子どもとの関わりを大切にしながら音楽表現活動を実践することができるようになります。 2. 保育の場において子ども達の発達過程を素直としながら、子どもとの関わりを大切にしながら音楽表現活動を実践することができるようになります。 3. 音楽表現活動を実践するために必要な音楽的基礎知識とピアノの表現技能を修得します。 4. 小学校「音楽科」への接続と学びの連続性を視野に入れた保育を理解できるようになります。			
テキスト	『こどもの指導法音楽表現』/西野洋子他/豊岡短期大学/2021 『音楽表現理論』/森川京子・茨木余吾他/豊岡短期大学/2019 改訂『幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育』/神原雅之・鈴木忠津子編著/教育芸術社/ ISBN: 978-4-87788-443-0 C3073 『幼稚園教育要領解説(最新版)』/文部科学省/フレールベル館/ ISBN: 978-4-577-81447-5-NDC376 『音楽表現理論』/森川京子・茨木余吾他/豊岡短期大学/2019 改訂『幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育』/神原雅之・鈴木忠津子編著/教育芸術社/ ISBN: 978-4-87788-443-0 C3073 『幼稚園教育要領解説(最新版)』/文部科学省/フレールベル館/ ISBN: 978-4-577-81447-5-NDC376 『音楽表現理論』/森川京子・茨木余吾他/豊岡短期大学/2019 改訂『幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育』/神原雅之・鈴木忠津子編著/教育芸術社/ ISBN: 978-4-87788-443-0 C3073			
参考書	『音楽表現理論』/森川京子・茨木余吾他/豊岡短期大学/2019 改訂『幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育』/神原雅之・鈴木忠津子編著/教育芸術社/ ISBN: 978-4-87788-443-0 C3073 『幼稚園教育要領解説(最新版)』/文部科学省/フレールベル館/ ISBN: 978-4-577-81447-5-NDC376 『音楽表現理論』/森川京子・茨木余吾他/豊岡短期大学/2019 改訂『幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育』/神原雅之・鈴木忠津子編著/教育芸術社/ ISBN: 978-4-87788-443-0 C3073			
この授業の意義	授業中の皆さんの疑問や気付き及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な箇所については次の授業で口頭により説明していきます。			
評価課題	授業態度・関心・意欲：10%、成果発表40%、定期試験(後期)に実施)50%を総合的に評価します。			
受講者の心遣いとメッセージ	ピアノ弾き歌いの技能については、学生のみならず一人ひとりと、経験に個人差があります。各自が「今」をスタートラインと捉え目標に向かって積極的・意欲的に日々精一杯の努力を重ねましょう。予習：授業で出された課題を十分弾きこなし、自信をもって表現できるように、主体的に取り組みましょう。この予習にはピアノ補習(90分間)を活用したり、日々30分の学習時間を要します。復習：練習が不十分だった楽曲においては、読譜・リズム唱、階名唱、奏法の間違いを再確認するなど十分行いましょう。この復習においては、ピアノ補習(90分間)を活用したり、日々30分の学習時間を要します。保育はチームで行う営みです。グループワークの場では仲間と協働しながら、各自が主体的・積極的に取り組み姿勢で学び合います。また、各時間の中で出された課題レポートは学びを振り返り保育のあり方方を考える重要な復習となります。熱心に取り組み、必ず提出することを心掛けてください。			
アオアリス	授業の初回に曜日時間帯等をお知らせします。複数で担当しますので、教員それぞれのスケジュールが異なるため、「melly」で事前に予約していただきます。			
その他の事項	授業の進み方により授業内容が入れ替わることがあります。			

授業内容進行表

1回	感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容などの理解① 表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践	16回	「音あそび」などによる表現活動の理解と実践 乳幼児の「楽器あそび」や「器楽合奏」などに親しむための指導法
2回	感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容などの理解② 表現活動を支える基本的なピアノ奏法の修得と実践 読譜を読み解き伴奏するための基礎知識	17回	「音あそび」から「楽器あそび」へ繋がる表現活動の理解と実践 乳幼児の音あそびを支える弾き歌いの指導法
3回	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解① 表現活動における伴奏の方法と実践	18回	「音あそび」「楽器あそび」から「奏でる活動」に繋がる表現活動の理解と実践 乳幼児の楽器あそび、器楽合奏を支える弾き歌いと伴奏の実践
4回	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解② 表現活動における伴奏の方法と実践(音階・拍子・テンポ・リズム)等の理解	19回	保育の音環境及び音楽環境と保育者の役割 乳幼児の楽器あそび、器楽合奏を支える弾き歌いの実践
5回	映像視聴などによる身近な音風景「自然の音」の周りの音」への気づきと表現方法① サウンドスケープなどの実践と器楽による表現及び伴奏法	20回	指導計画に基づいた指導案作成のポイントと模擬保育の進め方① 模擬保育に使用する歌や楽曲の教材研究と伴奏法の実践
6回	映像視聴などによる身近な音風景「自然の音」の周りの音」への気づきと表現方法② 自然の音・身の回りの音を表現する様々な伴奏形の実践	21回	指導計画に基づいた指導案作成のポイントと模擬保育の進め方② 模擬保育に使用する歌や楽曲の弾き歌いと伴奏法の実践
7回	声の仕組み・「歌う」表現活動の理解① 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法	22回	模擬保育「秋の絵本よりオノマトペを弾きながら」 模擬保育で用いる楽曲の教材研究と伴奏法の実践
8回	声の仕組み・「歌う」表現活動の理解② 乳幼児の発達とその表現活動を促す「弾きうたい」の実践(発達に応じた音域で歌える楽曲)	23回	模擬保育「秋の絵本よりオノマトペを弾きながら」 模擬保育で用いる楽曲の弾き歌いの実践
9回	映像を活用した誕生～1歳未満児頃の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法	24回	模擬保育「自然物のマラカスや身近な打楽器の音色を楽しむ」の指導案の理解 模擬保育で用いる楽曲の弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践
10回	映像を活用した1～2歳児頃の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」の発達と表現活動を支え引き出す伴奏法	25回	模擬保育「自然物のマラカスや身の回りの打楽器の音色を楽しむ」の実践と指導案の作成① 模擬保育で用いる楽曲の弾き歌いと伴奏法の実践
11回	映像を活用した3～4歳児頃の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法	26回	模擬保育「自然物のマラカスや身の回りの打楽器の音色を楽しむ」の実践と指導案の作成② 模擬保育で用いる楽曲の弾き歌いと伴奏法の実践
12回	映像を活用した5歳児頃の「声」の発達と表現活動の理解と実践 年長児の発達を理解した表現活動を支える弾き歌いの実践	27回	作成した指導案による「模擬保育」を実践しよう 模擬保育における弾き歌いと伴奏法の実践
13回	「わらべうた」や「伝承遊び」などにおける実践① 「わらべうた」や「伝承遊び」に親しむための指導法	28回	ポートフォリオなどを活用した保育活動の可視化 「クラスだより」を通じた家庭との連携の実践
14回	「わらべうた」や「伝承遊び」などにおける実践② 他の領域と関連した「生活や行事」等をテーマにした曲の理解と弾きうたいの実践	29回	小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ 季節を感じる歌、行事の歌など弾き歌いの実践
15回	領域「表現」と他の領域との関りの理解と応用 他の領域と関連した「生活や行事」等をテーマにした曲の理解と弾きうたいの実践	30回	振り返りとまとめ 成果発表会
			【定期試験】(有)・無

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと器楽・うた	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	(豊岡)杉山・村上・大江 大谷・松本 (姫路)杉山・岡光
実務経験の概要	岡光：幼稚園に14年、幼児連携認定こども園に2年勤務した経験があります。この間クラス持ち主任2年、専任副園長4年、園長2年に従事。			
授業概要	本授業では、1年次科目「こどもの指導法『音楽表現』」で修得した音楽表現の基礎技能を用いて、実際の保育の場を想定しながら具体的な保育内容の実践方法を学び、実践的な音楽的表現活動の指導力を養います。 1年次科目との連続性を考慮し、「こどもと器楽・うた」では保育における音楽表現活動の場に応じて曲を応用するピアノ演奏技能の修得を目指します。また、クラス活動やさまざまな行事で活かすことができる表現あそびを学修します。 本科目は前半・後半で2クラスに分制し、「ピアノ演奏技能応用編」と「クラス活動等への応用編」に別れ交替して取り組みます。			
授業科目の目的	1. 感性と表現の領域「表現」の目標、保育のねらい内容の理解に基づいて、より具体的・実践的な保育の場における音楽表現の技能と実践力を修得します。 2. 子どもも理解、楽曲の理解に基づき音楽の楽しさを伝えられる「弾き歌い」の実践力を養います。 3. 保育実践の場で行う「劇遊び」や「おはなしごっこ」を進めるために効果的な音や音楽の用い方を学びその応用の可能性を理解します。			
学習成果	1. 子どもの発達や子どもの姿を理解しながら「弾き歌い」を行い、音楽を通して音楽の喜びや楽しさを子どもたちに伝えることの意義・役割を理解できるようになります。 2. 保育実践の場で弾き歌う楽曲のレパートリーを増やし、実習や保育の場で自信をもって子どもたちと関わることができるようになります。 3. 音・音楽を保育の活動の中で効果的に用いる方法やピアノ技能を学び、子どもも音楽に親しみ楽しむ保育実践に結びつけることができるようになります。 4. 主としてクラス活動や行事で応用できる音楽的な保育技能を学び、保育活動に応用できるようになります。			
テキスト	『表現のためのやさしいピアノ即興演奏』/吉野幸男/ドレミ楽器出版/2014. ISBN:978-4-285-14146-7 『子どものうた村保育の木』小川宣子他/ドレミ楽器出版社/2008. ISBN:978-4-285-12062-2 (1年次に購入済み)			
参考文献	授業の中で必要な業績・資料等を紹介します。			
授業の方法	授業振り返りカード等の提出により、授業内容に対する疑問や気づき、感想などについて修正や再度の説明が必要な箇所については、次回の授業で説明していきます。			
評価	主体的に学習に取り組む態度：20%、創意・工夫：30%、表現・技能：50%			
到達目標	1年次科目「こどもの指導法『音楽表現』」で学んだ子どもたちの音楽表現の基礎知識を素地として、さらに保育の場を具体的にイメージし保育実践で応用することができるようになること、クラス活動や行事を視野に入れた学修内容を網羅しています。机上の学びのみではなく、実習で指導案に活用したり、さまざまな保育の場で活用したりすることができるようになること、子どもをイメージし、楽しみながら学修に取り組んでください。後期「こどもと器楽・うたⅡ」で実践する具体的な音楽表現活動の創作に応用できるよう知識・技能を広げてください。			
アクティブラーニング	初回の授業の中で曜日・時間帯等をお伝えします。教員が不在の場合もあり、事前に「nelly」で予約してください。			
その他の事項	授業の進み方により、授業内容が入れ替わることがあります。			

授業内容進捗表

1回	・弾き歌い(秋の歌)(1) 音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践①	
2回	・弾き歌いの実践(秋の歌)(2) 音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践②	
3回	・弾き歌いの実践(冬の歌)(1) 音を感じる・音であそぶ・楽器あそびの実践③	
4回	・弾き歌いの実践(冬の歌)(2) うたあそびの実践(日本・世界)①	
5回	・弾き歌いの実践(春の歌)(1) うたあそびの実践(日本・世界)②	
6回	・弾き歌いの実践(春の歌)(2) うたあそびの実践(日本・世界)③	
7回	・弾き歌いの実践(夏の歌)(1) 絵本・子どものお話遊びに合わせた効果音の研究①	
8回	・弾き歌いの実践(夏の歌)(2) 絵本・子どものお話遊びに合わせた効果音の研究②	
9回	・子どもたちの表現活動に応用するピアノ技能(1)変奏と応用(基本的な動きとリズム)① 絵本・子どものお話遊びに合わせた効果音の研究③	
10回	・子どもたちの表現活動に応用するピアノ技能(2)変奏と応用(基本的な動きとリズム)② 音楽表現活動における指導案作成①	
11回	・子どもたちの表現活動に応用するピアノ技能(1)抽象的な雰囲気① 音楽表現活動における指導案作成②	
12回	・子どもたちの表現活動に応用するピアノ技能(2)抽象的な雰囲気② 音楽表現活動における指導案作成①	
13回	・子どもたちの表現活動に応用するピアノ技能(3)動物編 音楽表現活動における模擬保育の実践②	
14回	・子どもたちの表現活動に応用するピアノ技能(4)自然編 保育実践の評価と振り返り(省察)①	
15回	・成果発表会(弾き歌い) 保育実践の評価と振り返り(省察)②/学修のまとめ	
【定期試験】有・無		

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと器楽・うたⅡ	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	(豊岡)杉山・田上・大江 大谷・松本 (姫路)杉山・岡光
実務経験の概要	岡光：幼稚園に14年、幼児進級認定こども園に2年勤務した経験があります。この間クラス持ち主任2年、主任副園長4年、園長2年に従事。			
授業概要	本授業では、1年生通年科目こどもの指導法「音楽表現」、2年生前期科目「こどもの器楽・うた」で修得した保育の場における音楽表現実践の基礎技能や知識を駆使しながら、実習や実際の保育の場でどのように活かし、保育を構築していくかについて実践的に学びます。 学生が主体となりテーマを基に様々なイメージを出し合い、音楽表現活動を模倣的に創り上げる経験をします。グループとしての協調性を発揮しながら、仲間一人一人の個性をどのように活かし音楽表現活動を創作していくかが重要な学びのポイントとなります。2年間の音楽系の学びを総括した授業内容です。 本授業ではグループに分かれ学生が主体となって教員とともに授業を進めます。			
授業科目の目的	1. 1年次から学んだ音楽系科目の知識・技能を用いながら、実習や具体的な保育の場に音や音楽をどのように用いて保育を構築していくのか具体的な実践を通して理解し、音楽技能を活かすことができるようになります。 2. 子ども達のイメージを広げ、豊かな感性を育むための音楽表現活動をグループワークの中で創造し、実際に演じることで、保育の実践力を育成します。 3. 音楽の楽しさや目的に向かって子どもが協働する過程のあり方を実際を学びながら、小学校教育への学びの連続性についても考えていきます。			
学習成果	1. 1年生科目「こどもの指導法「音楽表現」で修得した領域の意義や音楽的基礎技能を素地として楽しい音楽表現劇をイメージし音楽やお話しづくりを組み立てることができるようになります。 2. 実際に子ども達の気持ちになって感じたり実践したりすることで、子ども達の心に寄り添いながら音・音楽の使い方・表現方法を考えることができるようになります。 3. 仲間と共に同じ目的に向かって協働し目標を達成することの意義を体感することで、子ども達と共に音や音楽を楽しむ共有することができるようになります。 必要に応じてプリントを配布します。			
参考文献	授業の中で必要な楽譜や資料を紹介します。			
評価の方法	授業振戻りカード等の提出により、授業内容に対する疑問や気づき、感想などについて修正や再度の説明が必要な個所については、次回の授業で説明していきます。			
評価指標	授業態度・関心・意欲：20%、企画力：20%、協働性：20%、表現力：40%			
学習の目標	学生が主体となってグループワークを進めていきます。学生の皆さん一人一人が意欲的に自分の意見やイメージを出し合うとともに、教員もグループの一人として協働していきます。 子ども達の気持ちになってみることを通して子どもが楽しいと感じる音楽とは何か等数多くの気づきや学びを得ることができるよう、教員と一緒に双方向的に学び合う時間にしていきます。 「音楽は楽しい」ことを仲間と共に体感し、実習や保育の実践の場で子ども達も自らに自信をもってその思いを伝えてください。 2年間の音楽系科目の総集編のつもりで、積極的に本授業に参加してください。			
その他の事項	初回の授業の中で曜日・時間帯等をお伝えします。教員が不在の場合もあり、事前に「melly」で予約してください。			

授業内容進捗表

1回	・オリエンテーション 「音楽表現活動の実践」 グループ分け、活動内容を考える
2回	・保育の計画(音楽表現活動)を立案する 実施計画の立案
3回	音楽表現活動の実践①
4回	音楽表現活動の実践②
5回	音楽表現活動の実践③
6回	音楽表現活動の実践④
7回	音楽表現活動の実践⑤
8回	音楽表現活動の実践⑥
9回	音楽表現活動の実践⑦
10回	音楽表現活動の実践⑧
11回	リハーサル① 振り回りと環境の再構成
12回	リハーサル② 発表に向けて最終準備
13回	音楽表現活動「発表会」の実施
14回	音楽表現活動のまとめと振り返り
15回	子どもの感性と表現の領域「表現」、保育実践についてのまとめ・総括
【定期試験】 有・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育課程論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	宿南久美子
実務経験の概要	幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。			
授業概要	教育課程・保育課程とは、幼稚園・保育所・認定こども園が、何(教育・保育目標)を大切に、どのような方法(教育・保育方針)で、どのように(教育・保育内容)・どの時期(教育・保育期間)にしていくかという全体計画であり、保育の羅針盤ともいえるものです。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにしていきます。この授業は、事前に配付したプリントに基づき、パワーポイントを使って進めていきます。			
授業科目の目的	幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるか、またどのような要素から構成されているのかを理解することを目的とします。			
学習成果	1. 保育内容の水準と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解できるようにします。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に習得できるようにします。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解できるようにします。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶことができますようにします。			
テキスト	各回の授業内容ごとに資料を配付します。			
参考書	幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレール館 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレール館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレール館			
評価の方法	レポートは、学習の要点のまとめとなります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。			
評価基準	授業態度・意欲30%、課題・レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心算とメッセージ	教育課程・保育課程は、幼稚園・保育所・認定こども園での在園期間、あるいは日々の保育の方向性を示す基礎となるものです。授業では、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要か、どのような要素から構成されているのかなど、基礎理論を学びます。確かな学びの習得に向けて、その都度伝えていく予習・復習にきちんと取り組むことを忘れずに行ってください。 予習：その回のキーワードを学ぶための要点や実践事例を配布資料に記しています。予習では、配布資料を熟読して授業に臨んでください。この予習には90-120分程度の時間を要します。 復習：講義のレジュメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。90-120分程度の時間を要します。			
オフィスアワー	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回90分をオフィスアワーとしてしていますので、研究室に自由においでください。ただし、臨時の会議等により不在となる可能性もありますので、事前にお声をかけていただくことを推奨します。			
その他事項	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。			

授業内容進捗表

1回	<オリエンテーション> 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
2回	<教育(保育)課程の基礎理論> 教育(保育)課程の意義と必要性
3回	<教育(保育)課程の構造> 教育(保育)課程編成の前提・基礎
4回	<幼稚園の教育課程> 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方・編成・評価
5回	<保育所の保育課程> 保育課程の基本
6回	<保育所保育の特性を踏まえて> 3歳未満児の発達と保育内容
7回	<長期の指導計画> 園生活と長期の指導計画
8回	<短期の指導計画> 短期指導計画の意義・作成・活用
9回	<保育の計画と評価> 保育の実践と観点表
10回	<幼・保・小連携カリキュラム> 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム
11回	<開かれた園生活のカリキュラム> 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く
12回	<危機管理保育のカリキュラム> 危機管理保育カリキュラムの意義と必要性
13回	<時代の変化と新たな保育内容1> 多文化保育のカリキュラム
14回	<時代の変化と新たな保育内容2> 信頼される園づくりと学校評議員制度
15回	<時代の変化と新たな保育内容3> 育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
【定期試験】(有) 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
乳幼児保育 I	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	大西由美子
実務経験の概要	幼稚園教諭、保育士として、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。			
授業概要	乳幼児保育の歴史的な歩みと現代における乳幼児保育の現状など、乳幼児保育の基本的な知識を身に付けます。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、安全管理・保育現場における具体的な取組や連携などの運営体制を学びます。さらに乳幼児保育の場における職員間の連携・協働のあり方や保護者との連携や子育て支援への理解を深め、保育者としての人の関わりやその重要性を学びます。保育者として子どもへの深い認識をもち、具体的な保育のあり方や心構えを学んでいきます。授業は講義形式が基本です。内容によっては講義に加え演習・グループワークを行い双方向型の授業を行います。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史とともに変遷を重ねてきた乳幼児保育を概観しながら、現代における乳幼児保育の重要性やそのあり方、子育て支援の重要性についての知識を広げていきます。 2. 保育所・乳幼児保育の実際を学び、保育所以外での乳幼児保育に携わることができることのできる柔軟な保育者としての専門性と資質を養います。 3. 乳児期の心身の発達を学び、子ども一人ひとりへの応答的・感性的な関りの実際と、その重要性を理解し、実践につながるよう学びます。 4. 園(所)内外における様々な連携について学び、保育実践に活かすことができるよう知識を広げます。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の理念と歴史的変遷及び乳幼児保育の役割について、現代社会の保育と関連付けて考えることができます。 2. 保育所・認定こども園・乳幼児保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解できるようになります。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた実践的な保育内容のポイントを理解できるようになります。 4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び地域の関連機関との連携のあり方と重要性を実践に結び付けて考えられるようになります。 			
テキスト	乳幼児保育/園光みどり・山中ます子他著/豊岡短期大学/2019. 保育所保育指針解説(最新版)/厚生労働省/フレール館/ISBN:978-4-577-81448-2 NDC376			
参考書	授業の中でプリント、資料を配布します。			
の方法	皆さんの授業中における気づき及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な箇所については次回の講義で口頭により説明していきます。			
評価	授業態度10%、課題・レポート提出30%、定期試験60%により数量化して総合的に評価します。			
学習の目標	新しい保育制度の中で、乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性が改めて強調されています。乳幼児は保育者の心のこもった養護と、心と心のふれあいを通じて乳幼児の情緒が安定し、人や日分の生活する世界への信頼感を獲得していきます。保護者同様、乳幼児にとっても身近な存在である保育者の関りが、乳幼児の人格形成に大きな影響を与える、といっても過言ではありません。真摯な気持ちで受講してください。予習として、授業前にはテキストを読み疑問点があれば各自で調べておくようにしましょう。授業後には学びを確認するための復習として課題レポートの作成を行い、確実に提出するように心がけましょう。予習90分から120分、復習90分から120分の学習時間を要します。			
アオリイ	初回の授業日に曜日・時間帯をお伝えいたします。			
のる				
の他の				

授業内容進捗表

1回	<オリエンテーション> 「乳幼児保育」とは何か	
2回	<乳幼児保育の意義・目的と役割1> 乳幼児保育の意義、役割と歴史の変遷	
3回	<乳幼児保育の意義・目的と役割2> 乳幼児保育の役割と機能、養護と教育	
4回	<乳幼児保育の現状と課題1> 乳幼児保育及び子育て支援をめぐる社会的状況と課題	
5回	<乳幼児保育の現状と課題2> 保育所における乳児保育	
6回	<乳幼児保育の現状と課題3> 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)、家庭的保育等における乳児保育	
7回	<3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育1> 3歳未満児の生活と環境	
8回	<3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育2> 3歳未満児の遊びと環境	
9回	<3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育3> 3歳以上児の保育に移行する時期の保育	
10回	<3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育4> 保育者の援助 保育における配慮	
11回	<乳幼児保育における指導計画1> 保育の計画の必要性 全体的な計画・指導計画	
12回	<乳幼児保育における指導計画2> 指導計画に基づく保育実践・省察・評価	
13回	<乳幼児保育における連携・協働1> 職員間の連携・協働	
14回	<乳幼児保育における連携・協働2> 保護者との連携・協働	
15回	<乳幼児保育における連携・協働3> 自治体や地域の関係機関等との連携・協働	
	【定期試験】(有)・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
乳幼児保育Ⅱ	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	大西由美子
実務経験の概要 幼稚園教諭、保育士として、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。				
授業概要 乳幼児保育Ⅱでは、乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、より実践的な乳幼児との関わりや意義や具体的な方法を学び、一人ひとりの子どもと受容的、応答的なかわり方ができるような数多くの保育技術を習得します。3歳未満児の発育・発達をふまえた子どもの生活援助や保育環境の構成及び、子どもの成長発達を促す遊す遊びの実践・手作りおもちゃの作成、沐浴実践など、保育の場を想定した実践的な学びを深めます。授業は講義形式が基本です。内容によっては講義に加えグループワーク・模擬実習を行い、双方向型の授業を行います。				
授業科目の目的 乳幼児保育Ⅰでの基礎的知識を基盤として、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえ、より実践的な援助や関わり方を理解し、実践的な援助や関わり方を理解し、子どもの発達を促す遊びやその遊びに必要なおもちゃの作成を通して、子どもにふさわしい遊びの環境づくりが理解できるようになります。 2. 3歳未満児の発達を踏まえ、子どもと受容的、応答的なかわり方ができるような数多くの保育技術を習得します。 3. グループワーク・模擬実習を通して、乳幼児保育における配慮の実践を具体的に体験し、乳幼児への関わり方を理解し、実践に活用できるようにします。 4. 各年齢における乳幼児の生活を多面的に理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成をすることができ、実践に活用できるようにします。				
学習成果 1. 3歳未満児の発育・発達の特性を理解し、実践的な援助や関わり方を理解し、子どもの発達を促す遊びやその遊びに必要なおもちゃの作成を通して、子どもにふさわしい遊びの環境づくりが理解できるようになります。 2. 3歳未満児の発達を踏まえ、子どもと受容的、応答的なかわり方ができるような数多くの保育技術を習得します。 3. グループワーク・模擬実習を通して、乳幼児保育における配慮の実践を具体的に体験し、乳幼児への関わり方を理解し、実践に活用できるようにします。 4. 各年齢における乳幼児の生活を多面的に理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成をすることができ、実践に活用できるようにします。				
テキスト 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館/ISBN:978-4-577-81448-2 NDC376 幼児連棟型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府、厚生労働省、文部科学省/フレーベル館/ISBN:978-4577-81449NDC376 必要に応じてプリントを配布します。				
参考書 子どもの疑問や気づき及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については、次回の授業のなかで説明・補足していきます。				
達成目標 授業態度10%、レポート40%、定期試験50%により、数値化して総合的に評価します。				
学習の進め方 皆さんが保育士として自信をもって社会で貢献していくことができるように、乳幼児保育Ⅱでは乳幼児保育Ⅰで学んだ基礎知識を基にして、より専門性を高めるための学びを取り入れていきます。また、保育実習での経験を活かして、グループワークなどのより実践的な授業をしていきたいと思っています。 予習では、授業内に配布されるプリントを熟読し、学びのポイント・キーワードを理解しておきましょう。この学びには45分の学習時間を要します。 復習では毎回の授業を振り返りながら、レポートをしっかりと作成し学びのポイントをまとめておきましょう。この復習には90分の学習時間を要します。				
その他の事項 初回の授業日に曜日・時間帯をお伝えいたします。				

授業内容進行表

1回	<オリエンテーション「乳幼児保育の基本1」> 子どもの主体性の尊重と自己の育ち (事例で学ぶ)
2回	<乳幼児保育の基本2> 個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的なかわり
3回	<乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実践1> 0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践
4回	<乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実践2> 1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践
5回	<乳幼児における発育・発達と遊びの実践1> 手作りおもちゃの研究・制作1
6回	<乳幼児における発育・発達と遊びの実践2> 手作りおもちゃの制作2
7回	<乳幼児における発育・発達と遊びの実践3> 手作りおもちゃの発表・評価
8回	<乳幼児保育における発育・発達と生活の援助まとめ> 沐浴・調乳・授乳演習
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
【定期試験】(有)・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育内容総論	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	栗岡あけみ
実務経験の概要	幼稚園に3年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切に考えています。			
授業科目の目的	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」と「保育の内容」の関連を理解できるようにします。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できるようにします。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史的変遷を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実践に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解できるようにします。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解できるようにします。 			
テキスト	保育内容総論/栗岡あけみ・宿南久美子・和田真由美・位田かつ代著/豊岡短期大学			
参考書	幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレール館 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレール館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレール館			
レポートの方法	レポートは、学習の要点のまとめとなります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。			
評価	授業態度30%、課題・レポート等提出物10%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講生への心構え	<p>保育内容とは、幼稚園、保育所、認定こども園において展開される子どもの生活と遊びすべてを含むんだもので、子どもの経験や活動全体を表す言葉です。乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画など保育の基本が深まるよう実際の子どもや保育場面に結び付けて学んでいきます。グループ討議なども行います。確かな学びの習得に向けて、その都度伝えていく予習・復習にしっかりと取り組め、積極的な参加を望みます。</p> <p>予習：テキストの該当部分をしっかりと読み、疑問点等を整理しておいてください。この予習には30分程度の時間を要します。</p> <p>復習：講義のレジュメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には30分程度の時間を要します。</p>			
アオリエ	初回の授業時に曜日と時間はお伝えしますが、週1回90分をオアシスアワーとしていきますので、研究室に自由に来てください。ただし、臨時の会議等により不在となる可能性もありますので、事前に声をかけていただくと確実です。			
その他の事項	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。			

授業内容進行表

1回	<オリエンテーション・保育内容総論とは1> 保育内容総論を考える
2回	<保育内容総論とは2> 育みたい資質・能力と幼児期の終わりに育ってほしい姿
3回	<保育内容の歴史的変遷1> 明治・大正・昭和の保育内容
4回	<保育内容の歴史的変遷2> 平成の保育内容の変遷と今後の課題
5回	<改訂(定)された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方>
6回	<乳幼児期にふさわしい生活と保育内容1> 乳幼児にとつての園行事の意味と在り方
7回	<乳幼児期にふさわしい生活と保育内容2> 保幼小の円滑な連携
8回	<生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開1> 環境を通して行う保育
9回	<生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開2> 遊びによる総合的な保育
10回	<全体的な計画の作成と指導計画の作成1> 全体的な計画の作成
11回	<全体的な計画の作成と指導計画の作成2> 指導計画の作成手順と配慮
12回	<保育の評価と保育の記録1> 子ども理解(幼児理解)に基づく評価
13回	<保育の評価と保育の記録2> 観察記録を書く意味と子ども理解
14回	<保育内容の現代的課題1> 子育て支援
15回	<保育内容の現代的課題2> 特別な配慮を必要とする子どもの保育
【定期試験】(有)・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育実習	1年・後期～ 2年・前期	実習	160時間 (4単位)	宿南久美子 大西由美子
実務経験の概要	<p>宿南・幼稚園に4年間勤務した実務経験があります。その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。 大西・幼稚園教諭、保育士として、認定子ども園等に35年間勤務した実務経験があります。</p>			
授業概要	<p>保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深めます。また、保育の内容・方法・保育者の役割等を理解し、実践力を養います。 豊岡キャンパスはこうのとりの認定子ども園で80時間、学外の幼稚園または認定子ども園で80時間の実習をします。姫路キャンパスは学外で160時間の実習を行います。</p>			
授業科目の目的	<p>実習は、幼児や保育に関して習得した知識や理論を保育の実際の場で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や課題をもち、保育者をめざそうとすることを積極的に臨むとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることが目的となります。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深め、説明できるようにします。 2. 幼稚園教諭・保育教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解できるようにします。 3. 幼稚園教諭・保育教諭としての自己課題を明確にし、言葉で表現できるようにします。 			
テキスト				
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレッベル館 保育所保育指針解説／文部科学省／フレッベル館 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレッベル館</p>			
の方法	<p>(豊岡キャンパス) 前期のこのとり認定子ども園での実習の合同に、「教育実習事前・事後指導」の授業が入ります。その授業の中で、実習で困ったり迷ったりしていることを取り上げ、皆の問題として学び合います。また、責任実習をした後反省会をもち、課題を探り自分の課題として次に活かすことを大切にします。 この積み重ねにより力を付けていきます。 実習を終えて提出された実習記録について、コメントを添えて各々に返却します。 (姫路キャンパス) 10月に実施する実習が充実するように、幼児理解、幼児の発達の特徴や発達過程を踏まえた指導案の作成、また手遊び・絵本の読み聞かせ・製作等の引き出しを多く身に付けて臨みます。</p>			
成績評価	<p>(豊岡キャンパス) 各実習園からの評価(実習態度・資質・指導能力)80%、実習簿の内容20%により総合的に評価します。 (姫路キャンパス) 実習園からの評価(実習態度・資質・指導能力)80%、実習簿の内容20%により総合的に評価します。</p>			
受講者の心遣い	<p>保育現場では、学生であっても子どもも違っていると「先生」です。保育者としての自覚をもち、身だしなみ、言葉遣い、所作等さまざまな視点から観察する態度で臨んでください。 幼児をさまざまな観点から観察する目と、感性を養う努力をしてください。 うとする謙虚な姿勢と意欲をもって臨んでください。 先生が楽しめれば幼児も楽しいのです。何よりも保育の楽しさを見つけてみましょう。 体調管理に心掛けてみましょう。また、諸注意を遵守し責任をもって行動しましょう。</p>			
オフアイス	<p>初回の「教育実習事前・事後指導」の時間に、曜日と時間はお伝えしますが、オフィスアワーは、週1回90分です。ただし、臨時の会議や出張等により不在となる可能性もありますので、事前に声を掛けていただくと確実です。</p>			
その他				

授業内容進行表

実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。

○令和2年度入学生

豊岡キャンパス

(このとり認定子ども園)

令和3年4月19日(月)～7月15日(木)のうち10日間

(A・Bクラスに分かれ実習)

(学外幼稚園・認定子ども園)

令和3年9月6日(月)～9月18日(土) 2週間

姫路キャンパス

令和3年10月4日(月)～10月30日(土) 4週間

○令和3年度入学生

豊岡キャンパス

(このとり認定子ども園)

令和4年4月～7月の間に 10日間

(学外幼稚園・認定子ども園)

令和4年9月5日(月)～9月17日(土) 2週間

姫路キャンパス

令和4年10月3日(月)～10月29日(土) 4週間

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育実習事前・事後指導	1年・後期～ 2年・通年	演習	45時間 (1単位)	宿 南 久美子 國 光 西 由美子 大 天 四 由美子
実務経験の概要	宿南…幼稚園に10年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30名)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。 國光…幼稚園に14年、幼稚園類型認定ことも園に2年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、主任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。 大田…幼稚園教諭、保育士として、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。			
授業概要	教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。実習に向けて、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の意義、目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。 授業は保育の実践を学ぶためにVTRを視聴し保育の場をより明確にイメージしながら討論したり、模擬保育を実践したりし、教育実習に向かうための実践的な知識と技能を深めていきます。			
授業科目の目的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特異性や発達の過程を踏まえ、観察の視点、幼児理解とその方法、指導案の作成や保育を実践するための実践的技術を習得します。 また実習後には実習の振り返りを行い、自分自身の課題や学修目標を明確にすることを目指します。			
学習成果	1. 幼児教育の基礎理論を学び、実際の保育に応用できるようになります。 2. 実習の意義と目的を理解し保育を総合的に学ぶことができ、より実践的な保育を理解できるようになります。 3. 保育者の専門性と職業倫理について学び説明することができそうです。 4. 幼児の観察や幼児との関わりを想定して、幼児への理解を深め記録することができるようになります。 5. 幼児理解を基にした教師の援助の方法や環境構成等のあり方を理解し、指導案を作成することができるようになります。 6. 事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に立てることができるようになります。			
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導/田治米富子・麻和弘編/墨田短期大学 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレール館/ISBN:978-4-577-81447-5NDC376 適宜プリント等の資料を配布します。			
参考書	保育所保育指針解説/文部科学省/フレール館/ISBN:978-4-577-81448-2NDC376 幼児連携型認定こども園教育、保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレール館/ISBN:978-4-577-81449-NDC376			
の方法	幼児から見る、実習生は身近な大人であり保育者です。一人の教師としての振る舞いが身に付くよう普段の学校生活の中で挨拶や言葉遣い、気遣いや心配り等についても常に意識がもてるよう伝えていきなさいと考えています。勿論、保育についての基礎知識、実習日誌の記録方法、発達年齢に合った指導案の立案等は具体的な指導に指導致していきます。 提出物は、コメントを添え各々授業計画や実習スケジュールを鑑みながら返却していきます。			
評価	授業態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	実習を通して「保育者になりたい」という気持ちが高まることを願っています。そのためには、実習で子どもと関わる中で挨拶や言葉遣い、気遣いや心配り等についても常に意識がもてるよう伝える心構え、身だしなみ、言葉遣いを始め、実習の意義・目的、幼児への理解・観察の視点、さらに指導案の作成等を学びます。しっかりと学んで自信をもって臨みましょう。 指導案の作成等に要します。 予習：各回の授業前に、テキストの内容をしっかりと読んでおくください。この予習には45分を要します。 復習：この授業は実習に関わる多くの事前準備を整える内容になります。そのためには心構えや指導案の作成を含むこととなります。各回の授業後、その内容について、自分自身の考えをまとめたため、必要資料等を作成していただきます。この復習には90分を要します。			
アンケート	初回の授業の中で曜日・時間帯などをお伝えします。担当者が不在の場合もあり、事前に「melly」での予約をしていただきます。			
その他				

授業内容進行表

1回	<オリエンテーション> 幼稚園教育の特質・実習の意義と目的	16回	<指導案の作成3> 4歳児の指導案立案
2回	<保育者としての倫理> 実習生としての心構え・守秘義務	17回	<指導案の作成4> 5歳児の指導案立案
3回	<実習の内容と方法> 観察・参加・責任実習	18回	<責任実習の振り返り1> 自己評価と課題
4回	<幼児理解と保育> 幼稚園・認定こども園の役割	19回	<責任実習の振り返り2> 自己評価と課題
5回	<教育課程・指導計画> 長期指導計画・短期指導計画	20回	<責任実習の振り返り3> 自己評価と課題
6回	<保育観察1> 環境構成・幼児理解	21回	<学外実習 直前指導> 実習生としての心構え・準備物 身だしなみ等の確認
7回	<実習日誌の記録方法1> 環境構成・幼児理解	22回	<学外実習の振り返り1> 実習体験発表
8回	<保育観察2> 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	23回	<学外実習の振り返り2> 自己評価と課題・実習体験集作成
9回	<実習日誌の記録方法2> 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	24回	
10回	<実践的演習1> 幼児に即した歌・手遊び	25回	
11回	<実践的演習2> 絵本・紙芝居等の導入からの方法	26回	
12回	<オリエンテーション> 実習に向けての心構え	27回	
13回	<1年次の実習の振り返り> 報告会と自己評価	28回	
14回	<指導案の作成1> 指導案とは何か	29回	
15回	<指導案の作成2> 3歳児の指導案立案	30回	
		【定期試験】 有・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育・教職実践演習(幼稚園)	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿南久美子 國光みどり
実務経験の概要	宿南・幼稚園に10年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。 國光・幼稚園に14年、幼稚園補助認定者として2年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(2年)、主任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	これまでの授業や実習などで形成してきた教師・保育者としての資質能力を確認し、これからの自己課題の自覚と克服に努めます。 さらに、専門職業人としての円滑なスタートができるように、保育・教育現場に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス等を通して、実践的指導力を身につけます。 授業は講義に加えDVD視聴により保育の実際を学び、授業内容に応じてグループワークや討議を行います。			
授業科目の目的	本授業では、幼稚園教諭・保育士の養成課程で学んできた知識と保育・教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育士としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、専門職業人としての研修の必要性と自己研鑽に努める自覚をもち、人を教え育てる専門家としての生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師・保育士としての資質・能力とは何か、また教員として働く意味や使命感・責任感について再確認し高めることができます。 2. 教師・保育士に求められる社会的な対人関係を高めることができるようになります。 3. 教師・保育士としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができます。 4. ささまざまな子どもや保護者との出逢いを想定しながら保育力を養うとともに、保護者に対する子育て支援の実際を学び保育の実践力を養うことができます。 5. 危機管理についての知識をもち、安全・安心な保育の意義を理解し保育実践に結び付けて考えていくことができます。 			
テキスト	保育・教職実践演習/上巻・國光著/豊岡短期大学通信教育課程。 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレール ISBN:978-4-577-81447-5NDC376。			
参考書	授業の中で紹介します。			
評価方法	レポートは、その日の学習の要点となります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。			
評価基準	定期試験50%、振出物30%、授業態度・グループワークへの参加状況20%で数値化し総合的に評価します。			
受講者の心構え	本授業は、教職課程の科目やさまざまな活動を通して待たれた力が、教師・保育士として必要な資質能力として身に付いているか確認していく。また、将来教師・保育士になる上で自己の課題が何であるか、現時点で不足しているものは何かを見つめ、補いながらその定着を図ることで教師・保育士生活にスタートできるようにすることを目的としています。 本授業を通して、教師・保育士という職業を見つめ返し、現時点よりさらに力を付けて保育現場に飛び込んでいけるようにしましょう。グループ討議の場を大切にしたいと考えています。予習・復習を心がけ意欲的に参加してください。 予習：テキストの該当部分をつかり読み、疑問点等を整理しておいてください。この予習には90～120分程度の時間を要します。 復習：講義のレジュメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には90～120分程度の時間を要します。			
その他の事項	初回の授業の中で曜日・時間帯などをお知らせします。教員が不在のことがあるので、事前に「melly」からの予約をしてください。			

授業内容進行表

1回	<オリエンテーション> 授業の概要と到達目標の確認、学生自身による自己目標の設定
2回	<教師という職業1> 教師の意義、教師にも求められる資質と能力
3回	<教師という職業2> 「教師」「保育者」になる
4回	<保育者としての学級経営1> 学級とは、学級担任の役割
5回	<保育者としての学級経営2> 課題のある子どもへの対応
6回	<保育者としての学級経営3> 発達に遅れのある子どもへの対応
7回	<保育者としての学級経営4> 保育者と保護者
8回	<保育者としての学級経営5> 人権教育の観点から保育一子どもの権利条約一
9回	<特別支援への理解と対応> 特別支援教育と教師・保育者における役割と支援
10回	<保育カンファレンス1> 生きる力を育てる保育一まなび一
11回	<保育カンファレンス2> 生きる力を育てる保育一かわり一
12回	<保育カンファレンス3> 生きる力を育てる保育一いのち一
13回	<信頼される保育者> 危機管理と危機対応
14回	<保幼小連携> 幼保小のなめらかな接続のために
15回	<卒習のまとめ> 自己の振り返り、今後に向けての課題
【定期試験】(有)・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習 I	1年・通年	実習	160時間 (4単位)	栗岡あけみ・西村重喜 福田 達也・大西 清文 大西由美子
実務経験の概要	栗岡・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせて頂きました。町村...中学校の特別支援学級教科担任として2年、特別支援学校(幼稚園・小学部・中学部、高等部)の校長として3年しました。大西...保育園、幼稚園、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。			
授業概要	保育実習 I は、保育所実習と施設実習からなります。実際に保育所、福祉施設において乳幼児(利用者)とかかわり、保育上の仕事に助手的な形を通して、授業で学んだ内容と実践の統合を図る科目です。			
授業の目的	保育現場の実際に従い、子ども(利用者)の観察やかかわりを通して、子ども(利用者)への理解を深めます。そして、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。			
学習成果	<p>【保育実習 I (保育所)】(2単位)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の生活に参加し、保育所及び乳幼児理解を確かなものにする。 2. 保育所の機能と保育士の職務内容や職業倫理、チームワークについて理解する。 3. 生活や遊びの一部を担当し、保育技術を身に付ける。 <p>【保育実習 I (保育所以外の児童福祉施設)】2単位</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居住型児童福祉施設の生活に参加し、施設及び利用者とその家族について理解を深めることができるようになります。 2. 居住型児童福祉施設の機能と保育士の職務について理解し、身につけることができるようになります。 3. 生活や援助の一部を担当し、養護技術を習得できるようにします。 			
テキスト	保育実習指針/豊岡短期大学 保育所保育指針解説/フレール館 (ISBN:9784577814482)			
参考書	幼連連携型認定こども園教育・保育要領解説/フレール館 (ISBN:9784577814499)			
学びの方法	2年生前期で、保育実習 I の振り返り授業を行います。その時は、実習簿を利用し、振り返りを行いますので、きちんと実習先(施設・保育所)に提出して最終返却してもらい、授業時には、実習簿を携帯して臨みましょう。			
評価	実習簿の内容20%、各実習園による評価(実習態度、保育所理解、施設理解、乳幼児・児童の理解等)80%で総合評価します。			
学習の準備	実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。 ・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はととめて大切に。自分の考えや感想などを文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかり行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。 ・学生指導委員会の指導を繰り返し受け受けた人は、実習に臨まない場合があります。学生便覧「学生生活」をよく読み、保育者となる人として、ふさわしい生活態度を心がけましょう。			
オフィス	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前 に声を掛けてくれると確実です。			
その他の事項	【本実習科目の履修条件】 ・保育士資格取得必修科目(1年次科目) 8教科中、5教科以上の修得が必要です。 ☆注意しましょう。			

授業内容進捗表

実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

【保育実習 I (保育所実習)】 10日間 (80時間)

豊岡キャンパス	令和4年2月中旬～3月下旬	観察実習・参加実習
姫路キャンパス	令和4年2月中旬～3月下旬	観察実習・参加実習

【保育実習 I 居住型児童福祉施設等における実習】 おおむね10日間 (80時間)

豊岡キャンパス	令和4年2月中旬～3月下旬	観察実習・参加実習
姫路キャンパス	令和4年2月中旬～3月下旬	観察実習・参加実習

<履修上の注意事項>

保育実習指導 I の履修が必要です。実習の詳細については、保育実習指導 I で提示します。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅰ	1年・前期～2年・前期	演習 (2単位)	60時間 (2単位)	栗岡あけみ・西村重寛 菊田達也・大西清文 大西由美子
実務経験の概要	栗岡…幼稚園に38年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、主任の副園長(2年)と園長(9年)をさせて頂きました。西村…中学校の特別支援学級教科担任として2年、特別支援学校(幼稚園・小学部・中学部・高等部)の校長として3年しました。大西…保育園、幼稚園、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。			
授業概要	保育実習指導Ⅰでは、1年次に実施される保育実習Ⅰ(保育所・施設)の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設(保育所2週間(80時間)、乳児院・児童養護施設・障害者支援施設など(80時間))の実習における要求される事前手続きから、基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての配慮などを学びます。この授業の形態は「講義形式」です。講義の時間では、ビデオ・パワーポイントにより授業を進めていきます。			
履修科目の目的	児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深めます。また、保育所の子どもや施設の利用者の理解を深め、保育士としての役割や仕事について学習します。その上で、実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にします。			
学習成果	1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができるようになります。 2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができるようになります。 3. 実習施設における子どもたちの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できるようになります。 4. 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に文章で記述することができるようになります。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記述したりすることができるようになります。			
テキスト	保育実習指導/豊岡短期大学 保育所保育指針解説/厚生労働省/フレール館 (ISBN:9784577814482)			
参考書の法	授業の中でプリント、資料を適宜配付します。ファイル(授業で渡されたプリントなどを整理できるもの)を必ず持参すること。			
成績評価方法	2年次の保育実習指導Ⅰの授業で、実習簿を使った、振り返り授業を行います。授業に実習簿が携帯できるように、実習園への最終提出や受取日に留意しましょう。			
受講の準備	受講態度・学習への関心30%、提出物(身上書、提出物(身上書、ワクチン接種済み書など)、課題(指導案、製作物など)の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。			
受講の準備	実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びだけでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることとしよう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもたちの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めることとはどういうことかを一緒に考えていきましょう。爽やかな実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育観を養ってください。そのためには、テキストや保育所保育指針解説書を読み、予習することが大切です。心構えがあれば、楽しい授業に自ら作り上げられます。是非、学びを深めてください。			
受講の準備	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前には声を掛けてくれると確実です。			
その他の事項	学生便覧「学生生活」を熟読しておきましょう。園見学や実習事前打ち合わせ(オリエンテーション)では、スーツ着用です。準備しておきましょう。園見学については、園との日程調整でシラバスが変更になる場合があります。第1回～第20回保育所実習(前期後期)・第21回～第30回施設実習(後期)です。時間割表を確認してください。			

授業内容進行表

1回	前期<オリエンテーション> 2年間に書ける保育実習の回数・期間・種類・準備する書類について	16回	<指導案を使っての模擬保育>(保育所) 実践するときのポイント
2回	<保育実習の内容と位置づけ> 実習目的とその概要について	17回	<後期保育所実習直前指導> まとめ 準備事項の確認
3回	<保育所実習園への依頼と・安全管理の重要性> 実習先への依頼方法と手続き 守秘義務の重要性	18回	前期<実習体験の振り返り1>(保育所) 体験発表と記録に基づく自己評価
4回	後期<保育所実習の方法と理解> 映像を通して	19回	<全体総括>(保育所) 保育実習課題の明確化
5回	<保育所保育指針から> 子どもの発達と特徴と保育所生活について	20回	<全体総括>(保育所) 保育実習課題の明確化
6回	<実習における基本的態度、マナーと意識> 実習生の生活習慣・健康維持・マナーと生活から	21回	<施設実習オリエンテーション> ・施設実習の心構え ・観察実習を通じたことも理解
7回	<実習簿の書き方1>(保育所) 実習簿の意義、記入上の諸注意	22回	<施設実習の課題の明確化> 児童福祉施設における保育士
8回	<実習簿の書き方2>(保育所) 観察記録の取り方、記入方法	23回	<施設実習の意義と目的> 施設実習の性格と内容・意義
9回	<保育所見学> 子どもの姿、保育者の関わり・環境構成について	24回	<施設の実際> 実習施設の機能と役割
10回	<保育所見学のまとめ2> 観察記録への記入方法	25回	<施設実習の心構え> ・実習前の自覚 ・実習中・実習後の心構え
11回	<保育所見学のまとめ3> 実習日誌の書き方	26回	<施設実習における実習簿の書き方> ・記録の取り方 ・実習簿への記入の仕方
12回	<指導案を立てるときの基本1>(保育所) 実習における指導案	27回	<施設実習直前指導> ・事前指導のまとめ ・準備事項の確認
13回	<指導案を立てるときの基本2>(保育所) 指導案を立てるときのポイント	28回	<実習体験の振り返り1>(施設) 体験発表と記録に基づく自己評価
14回	<実習園でのオリエンテーションについて> 連絡方法・態度・持ち物・事前準備・その重要性	29回	<実習体験の振り返り2>(施設) 施設専門職としての保育士上の役割理解
15回	<指導案を立てるときの基本3>(保育所) 保育計画に基づく指導案の作成	30回	<全体総括>(施設) 保育実習課題の明確化
		【定期試験】 有・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅱ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	栗岡 あけみ 大西 由美子
実務経験の概要	栗岡…幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。大西…保育園、幼稚園、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。			
授業概要	社会の状況が変化し「子育て・子育て」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたる、より高い専門性が求められています。保育士をめざす者は、各教科で学んだ内容を結びつけ、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。			
授業科目の目的	保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児の内面理解と保育所機能を深めるとともに、子育て支援や保護者との連携など保育士の職務について学ぶことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができるようにします。 2. 既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実践することができるようにします。 3. 指導計画の作成、実践、観察、評価、を行い、その重要性を説明することができるようにします。 4. 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができるようにします。 5. 保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて説明することができるようにします。 6. 保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができるようにします。 			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学			
参考書	保育所保育指針／厚生労働省／フレール館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレール館 (ISBN 978-4-577-81448-2) 保育用語辞典／一軒社 (ISBN 978-4-86359-106-6) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレール館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレール館 (ISBN 978-4-577-81449-9)			
評価の方法	実習終了後、実習簿を利用した振り返り授業を行います。			
基礎知識	実習園による評価(実習態度・保育所理解・幼児理解など)80%、保育実習簿の内容(字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・反省力など)20%を総合して評価します。			
受講の心構え	実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・現場ではどんなことが知りたのか、自分の課題を最初から立てておきましょう。 ・記録はとんでも大切です。自分の思いや考えなど文書で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかり行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。 			
アセスメント	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前声を掛けてくれると確実です。			
その他の事項	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(履修所)及び保育実習Ⅰ(施設)を履修していることが必要です。			

授業内容進捗表

実習期間

以下はおおよその日程です。

豊岡キャンパス 8月中旬から2週間 参加実習・指導実習

姫路キャンパス 8月下旬から2週間 参加実習・指導実習

実習計画

- <保育全般への参加と保育技術の習得>
- <子どもの個人差理解と対応方法の習得>
個々の発達や生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応
- <指導計画の立案と実践>
- <子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得>
- <地域社会(保護者)に対する理解と連携方法>
- <子どもの最善の利益への配慮>
- <保育士としての職業倫理理解>
- <保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化>

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育実習指導Ⅱ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	栗 岡 あけみ 大 西 由美子
実務経験の概要	栗岡…幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。大西…保育園、幼稚園、認定こども園等に35年間勤務した実務経験があります。			
授業概要	保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習の経験を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく授業です。授業の進め方は、演習や発表を行います。内容によります。内容を要約します。			
履修目標	保育実習Ⅱの学びを深めることを目的とした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ、自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子どもも理解の方法、指導計画作成の実際について学びます。また、保育所実習の経験を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行います。内容を要約します。			
学習成果	【事前指導】 ・保育実習Ⅰとの違いと保育実習Ⅱの内容を理解し、自己課題をもとに積極的に実習に臨むことができようようにします。 ・子どもも最善の利益を理解したうえで、個々の発達を踏まえた指導計画を立てることができようようにします。 【事後指導】 ・観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解し、実習簿に記述できようようにします。 ・実習先での学習を総括的に振り返ることができようようにします。 ・自身の今後の学習に繋がる成果と課題を明らかにし、文庫化することができようようにします。			
テキスト	保育所保育実習指導書/フレール館 幼児理解認定こども園教育、保育要領解説書/フレール館 一年次に購入したテキストを継続して使用します。			
参考書	必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。(リンクファイルを準備しておくこと)			
評価方法	実習後は、実習簿を使って実習記録や指導案の見直しを行い振り返ります。振り返り授業までに実習先から返却受け取りを済ませて、授業に臨みます。また、実習体験を文集にまとめ、自己課題を明確にします。			
評価	期末定期試験は実施しません。受講態度30%、提出物とレポート40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。			
受講の心得	保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。先輩保育士から学ぶ謙遜な姿勢と意欲をもって多くを吸収していきましょう。子どもも良いモデルになれるよう言葉遣い、態度、所作に気を配りましょう。また、保育園関係の図書を読み、子どもの育ちや保育者の役割、保育のあり方について、自主的に学習したり、他教科より保育に関する社会的課題や子育て支援等についても理解を深める努力が必要です。実習前には教育研究、保育の計画、指導案の作成などを行い実習先で困惑しないよう、積極的に教員の助言を求めて準備をしましょう。実習後は実習記録や指導案の見直しを行います。実習簿の提出日を遵守し、振り返り授業に臨みましょう。 ※授業へは全出席すること。やむを得ない理由によって欠席した場合は、科目担当教員の指示を仰ぎ補習を受けること。			
アセスメント	初回の授業時に曜日と時間をお伝えしますが、週1回、オフイスアワーとしていきますので、自由に出席してください。ただし、臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もありますので、事前に声をかけてくれると確実です。			
その他の事項	保育士資格を取得するための履修科目が不十分な者、事前・事後指導を正当な理由なく欠席した者、課題・手続きが未了の者、指示・指導に従わない者は、実習の履修があるいは単位を認めない場合があります。また、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることもあります。授業には緊張感をもって臨んでください。8回の授業です。出欠日数を気に付けましょう。			

授業内容進行表

1回	<保育実習における総合的な学び> 保育実習Ⅱの心構え(子どもの最善の利益)諸手続きについて	
2回	<子どもの保育と保護者支援> 保護者支援の基本とコミュニケーション職業倫理	
3回	<保育の実践力の育成1> 実習日記の記入方法 総合(全日)実習(遊びと教材研究)	
4回	<保育の実践力の育成2> 事前訪問について(実習先の理解) 指導計画の立案・作成について	
5回	<保育実践力の育成3> 子どもの状態に応じた適切なかわり 表現技術を生かした保育実践	
6回	<実習直前指導> 実習課題の明確化と礼状の書き方	
7回	<事後指導における実習の総括と評価1> 実習の総括と自己評価	
8回	<事後指導における実習の総括と評価2> 自己課題の明確化	
9回		
10回		
11回		
12回		
13回		
14回		
15回		
		【定期試験】 有 ・ (無)

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅲ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	西村 重喜 稲田 達也・大西 清文
<p>実務経験の概要</p> <p>西村…中学校の特別支援学級にて教科担任を2年間経験。幼稚園。幼稚園を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。 大西…児童相談所、児童福祉士として7年の実務経験があります。</p>				
<p>授業概要</p> <p>保育所以外の児童福祉施設実習であり、8月中旬～下旬に10日間(80時間以上)の実習を行います。1年次からのすべての学びと実習の経験を生かし、さらに専門性の高い実習を行います。</p>				
<p>授業科目の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の役割や機能について、実践を通して理解を深めることを目的とします。 2. 子ども・施設職員との関わりを通して、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深めることを目的とします。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を深めることを目的とします。 4. 実践を通して、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得することを目的とします。 5. 実習を通して、自らの福祉観・援助観を構築し、保育士としての自己の課題を明確化することを目的とします。 				
<p>学習成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解できるようになります。 2. 施設における支援の実践について理解できるようになります。 3. 施設利用児の生活や思いを把握し、その背景もふまえた援助を実践できるようになります。 4. 多様な専門職との連携について理解を深め実践できるようになります。 5. 地域との連携や家庭への支援の実態について認識を具体化します。 6. 保育士の多様な業務と職業倫理について実践を通して説明できるようになります。 7. 保育士としての自己課題を認識できるようになります。 				
<p>参考文献</p> <p>授業内でプリント等を配付します。</p>				
<p>参考書</p> <p>保育所保育指針解説書/厚生労働省編/フレール館 (ISBN:9784577814482) 五訂 福祉施設実習ハンドブック/岡本幹彦他編/みらい (ISBN:9784860154813) 保育所・施設・幼稚園実習ステッパブック [第2版]/山本美貴子他編/みらい (ISBN:9784860155179)</p>				
<p>評価方法</p> <p>実習期間中に訪問先を訪問し、実習内容や実習態度に関する面談を行います。面談では、実習前半の振り返りを行うとともに、後半に向けての指導助言を行います。</p>				
<p>評価基準</p> <p>実習施設評価(実習態度・実習内容)80%、実習日誌の内容(文字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・考察力など)20%で総合評価します。</p>				
<p>学習の留意点</p> <p>福祉の現場で実習の機会をいただくことに感謝し、誠実かつ意欲的に取り組みましょう。利用者の心に寄り添い、より良い支援ができるよう努力を重ねることが必要です。一生懸命な姿勢が何より大切です。</p> <p>体調管理には十分に気をつけ遅刻や欠席は絶対に行わないこと、身だしなみを整えること、諸注意を厳守し各自が責任をもって行動することが望まれます。自立した人間としての強い自覚の上、職業実習として批えることが望まれます。</p>				
<p>その他</p> <p>授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前 に声を掛けてくれると確実です。</p> <p>本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅱ(施設)を履修していることが必要です。</p>				

授業内容進行表

- 「保育実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬の10日間で80時間以上の実習を行います。
- 実習の概要は次に示しますが、具体的には、各施設の指示によって実施していきます。
1. 実習施設の役割と機能について理解する。
 2. 実習施設における支援内容の概要を把握する。
 3. 利用者を理解し、個々に応じた支援を実践する。
 4. 個別の支援計画に沿った支援を実践する。
 5. 利用者との関係について学ぶ。
 6. 他職種との連携について学ぶ。
 7. 地域の子育てへの支援など、地域社会との連携について学ぶ。
 8. 多様な業務及び職業倫理について考察を深める。
 9. 実習日誌の記入によって自分の課題について考察し、今後の目標を明確化する。
 10. 実習を通して自己の課題について考察し、今後の目標を明確化する。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅲ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	西村 重喜 稲田 達也・大西 清文
実務経験の概要	西村…中学校の特別支援学級にて教科担任を2年間経験。幼稚園を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。 大西…児童相談所、児童福祉士として7年の実務経験があります。			
授業概要	保育実習Ⅲの事前学習と事後学習を行います。事前学習では、保育実習Ⅰ(施設)で学んだことを基礎に、本実習の意義・目的、方法等を明確にし、より専門的な実習となるよう学びを深めます。さらに実習計画の立案や事前手続きを行います。また、実習に必要な社会人・職業人としてのマナーを身につけます。事後学習では、実習の振り返りとまとめを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題や認識を明確にします。この授業の形態は「講義形式」です。講義の時間では主にパワーポイントにより授業を進めていきます。			
授業科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・(実習前) ・実習施設の理解、利用者、職員、専門知識・技術について理解することを目的とします。 ・利用者の人権の尊重や実習生としての心構えなど実習に際しての留意事項を理解することを目的とします。 ・実習の記録方法、実習計画の作成方法、事前準備や手続きについて理解することを目的とします。 ・社会人、専門的職業人の視点に立った実践力と自覚を高めることを目的とします。 ・(実習後) ・施設保育上の役割について、発表や文章化を通して、再度考察を行い認識を深めることを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲの意義や目的を言葉で説明できるようになります。 2. 実習や既習の教科内容を関連付けて、保育実践力を養うことができます。 3. 観察、記録、評価に基づいた保育の方法について意識し実践できるようになります。 4. 児童福祉施設の機能、そこで営む児童の状況、利用者の自立を支える保育士の役割について、具体的に述べるできるようになります。 5. 実習での体験を普遍化し、現在の保育現場の課題、自己の保育者としての課題を明確化できるようになります。 			
テキスト	授業内において適宜資料を配付します。			
参考書	石井「福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦 他／みらい (ISBN:9784860154813) 保育所・施設・幼稚園実習マニュアルブック【第2版】／日本実業子他編／みらい (ISBN:9784860155179) 児童養護施設運営ハンドブック／厚生労働省 乳幼児運営ハンドブック／厚生労働省			
の方法	「実習4身上調査」と「実習計画書」の作成については、完成まで添削と面談を行います。実習後の授業では、実習簿を便った振り返りを行います。授業に実習簿を添削できるように、実習後の最終提出及び受取日に留意してください。			
準備	実習後の課題総括については、別途、体験文集の原簿作成を通して行います。			
設備	受講態度30%、提出物など40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。			
メッセ	施設実習実施のための必須科目であることを自覚していただく。授業では、施設保育上の業務を理解し実践力を高めるために、事例討議や課題学習への積極的な取り組みを期待します。この科目の提出物は、実習施設に提出する大切なものが多く、期滿を守り、確実に提出することが必要です。実習に向けて、自らの体調管理に努めるとともに、社会人としての自覚を高め、諸注意を厳守して行動することの必要性を認識し、より良い実習ができるよう学びましょう。実習では利用者とともに生活させていただくので、普段から社会で暮らしていく基本的な生活習慣について、考えながら行動していきましょう。			
アプ	授業、会議、出張などにより不在となる場合を除き、随時オフィスアワーとして対応します。事前			
その	以下の教科の内容が十分に理解できていることを前提として授業を運営します。 「社会福祉論」、「こどもの発達と家庭支援」、「社会的養護Ⅰ」 「社会的養護Ⅱ」、「障害児保育」			

授業内容進捗表

1回	<オリエンテーション> 施設実習の意義と目的
2回	<施設の機能と役割1> 養護系施設実習の意義と目的
3回	<施設の機能と役割2> 障害児系施設の理解
4回	<実習計画の作成と事前準備> 実習計画と事前書類の作成等
5回	<実習日誌の記入方法> 実習日誌の意義・記入の仕方
6回	<実習直前指導> 実習生としての心構え・準備物
7回	<実習体験の振り返り1> 体験発表
8回	<実習体験の振り返り2> 自己評価と課題
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
	【定期試験】 有・無

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護Ⅰ	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	大西清文
実務経験の概要				
授業概要	子どもにとって両親や家族と暮らすことが大切なのは言うまでもありませんが、さまざまな理由で両親や家族と暮らすことができない子どもたちもたくさんいます。社会的養護は、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」を理念として行われていることを理解し、社会的養護を果たす保育士としての役割を学びます。保育士として身につけておかなければならない「子どもの権利擁護」の為に必要な視点・姿勢・専門知識について深く理解します。児童福祉施設での日常的な子どもとのかかわり・自立支援・子ども家庭サービスのあるあり方等についても学習します。適宜グループワークを実施し、意見交換をします。			
授業科目の目的	社会的養護の基本と、里親など家庭養護と児童養護施設など施設養護の概要を知り、社会的養護に関する理論、歴史、政策、原理(原則)等について修得することを目的として学習します。さらに、社会的養護の概念と基本的な理念について学びます。子どもとその家庭の理解を踏まえ、理念や制度等の基礎的事項と援助に当たり必要となる実践力を効果的に習得します。また、現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性についても学ぶことを目的とします。さらに、児童福祉施設の役割を理解します。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができるようになります。 2. 児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができるようになります。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解することができるようになります。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができるようになります。 5. 社会的養護の現状と課題について理解することができるようになります。 			
テキスト	保育福祉小六法／保育福祉小六法編集委員会 編／みらい／2021年 (ISBN 978-4-86015-502-5)			
参考書	新・基本保育シリーズ 社会的養護Ⅰ／相澤 仁・林 浩康 編集／中央法規／2019年 (ISBN 978-4-8068-5786-1)			
レポートの方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。			
成績評価	授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数値化して評価します。			
学習のしかた	現代社会では、児童虐待など子どもに関わる問題が深刻化され、それに伴い、児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもたちが増えています。社会的養護で暮らす子どもたちの背景を知ることにも大切であり、日々々の社会の変化にも敏感であって欲しいです。そのためには、ニュースや本などから情報を得ることも大事なことです。予習は各回の授業内容について、該当する配布資料の箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約90分から120分の学習時間を要します。			
アセスメント	初回の授業時に曜日と時間を伝えますが、週1回90分をオフィスアワーとしていきますので、自由にお願いください。臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もあるので、事前に連絡ください。			
その他				

授業内容進行表

1回	<現代社会における社会的養護の意義> 社会的養護とは何か／社会的養護の理念と概念	
2回	<社会的養護の歴史の変遷> 諸外国における社会的養護の歩み／子ども観の変遷	
3回	<子どもの権利擁護と社会的養護> 子どもが家庭で育つ権利保障／社会的養護における虐待	
4回	<社会的養護の基本原則> 児童福祉法の改正／家庭教育にかかる社会的コスト	
5回	<社会的養護における保育士等の倫理と責務> 倫理とは／専門職の倫理としての職業倫理	
6回	<社会的養護の制度と法体系> 社会的養護の制度の概観／社会的養護の基本法／社会的養護に関するさまざまな関連法規等	
7回	<社会的養護のしくみと実施体系> 社会的養護の基本的しくみ／社会的養護も実施体系	
8回	<社会的養護とファミリー・ソーシャルワーク> ソーシャルワークの定義／ファミリー・ソーシャルワーク	
9回	<社会的養護の対象と支援のあり方> 社会的養護の対象となる子どもや家庭について／児童虐待と社会的養護	
10回	<家庭養護と施設養護> 家庭養護の要件／里親制度の現状と課題	
11回	<社会的養護に関わる専門職> 社会的養護の施設に設置すべき職員の種類	
12回	<社会的養護に関する社会的状況> 現代社会における養護問題	
13回	<施設等の運営管理の現状と課題> 施設等の運営管理／社会的養護の利用類型	
14回	<被措置児童等の虐待防止の現状と課題> 被措置児童等虐待とは／被措置児童等の虐待防止／被措置児童等虐待の現状と課題	
15回	<社会的養護と地域福祉の現状と課題> 社会的養護関係の施設と地域とのかかわり／地域への支援	
【定期試験】(有)・無		

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護Ⅱ	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	大西清文
実務経験の概要				
授業概要	子どもを育むことは一義的には親の責任であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっており、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設で養育する子どもたちにとどまらず、おこなったような援助がおこなわれているかを学び、福祉に関わる実践力を身につけます。社会的養護の基礎的な内容を学び、保育士として社会的養護に関わる相談援助の技術を習得します。個別支援計画の作成の仕方や記録及び自己評価について理解し身につけます。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。			
授業科目の目的	社会的養護を通して、子ども虐待の防止、家庭支援・児童福祉施設についての理解や認識を深めます。社会的養護の全体像を把握し、養護を要する子ども自立支援のための知識、技能の習得を目的とします。社会的養護は、子どもの最善の利益を追求し、社会でどのような支援ができているかについて学ぶ授業です。本来、子ども達は、家庭で養育されることが望ましいですが、様々な要因により、施設支援を必要とする子どもも多くいます。そのような、子どもの最善の利益とは、どのようなものかについて、具体例を交えて紹介し、実習での体験につながることを目的とします。さらに、児童福祉施設での保育士としての日常業務を知り、現場で必要な知識を理解し身につける。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できるようにします。 2. 施設養護及び家庭養護の実践について理解できるようにします。 3. 社会的養護における計画・記録・日報の実践について理解できるようにします。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できるようにします。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できるようにします。 			
テキスト	保育福祉小六法/保育福祉小六法編集委員会 編/みらい/2020年 (ISBN 978-4-86015-502-5)			
参考書	新・基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ/相澤 仁・村井美紀・大竹 智 編集/中央法規/2019年 (ISBN 978-4-8038-5798-4)			
指導方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。			
基礎評価	授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数値化して評価します。			
受講の心構え	施設で生活する子どもたちをどのように支援していくべきなのか、みなさん自身もじっくり考えるようにしてください。そのためにも、日ごろから予習・復習に努め、理解を深めましょう。該当する配布資料の箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には30分～1時間程度の学習時間を要します。復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約30分の学習時間を要します。			
オフィス	初回の授業時に曜日と時間を伝えますが、週1回90分をオフィスアワーとしていますので、自由にお願いください。臨時の会議や出張などにより不在となる可能性もあるので、事前に連絡ください。			
その他				

授業内容進捗表

1回	<社会的養護における子どもの理解> 子どもの権利擁護/子どもの理解を深める
2回	<社会的養護の内容> 日常生活支援/心理的支援/自立支援
3回	<施設養護の生活特性及び実際> 乳児院/障害児施設/母子生活支援施設 等
4回	<家庭養護の生活特性及び実際> 家庭養護とは/単親制度
5回	<アセスメントと個別支援計画の作成> アセスメントと個別支援計画/自立と自立支援計画
6回	<社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践> 相談援助の定義/ソーシャルワークにおける支援
7回	<社会的養護に関わる専門的技術> 社会的養護における保育の専門性
8回	<社会的養護における家庭支援> 家庭支援をするとはどういうことか
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
【定期試験】(有)・無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
言葉とこどもの文化	1年・後期	講義	15時間 (1単位)	長谷雄一
実務経験の概要				
授業概要	言葉の機能を理解し、絵本、紙芝居、おはなし、ことば遊び等、子どもたちの言葉を育む言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると共に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解します。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深めます。また、グローバル時代を生きていく子どもたちに日本の伝統文化の豊かさや豊かさを伝え、日本語の美しさを育む感性を、文化財を通して養います。外国との文化の違いを理解し、その違いを共に楽しめる保育のあり方を考えます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の「言葉」の内容を踏まえ、児童文化財が子どもたちの習得にどのように役立つのかを理解します。 2. 保育の現場で用いられる絵本、紙芝居、おはなし、ことば遊び等の児童文化財の特質にあった活用方法を学びます。 3. 日本独自の文化やその文化を育んできた日本語の美しさや豊かさを知り、保育に活用できる方法を学びます。 4. 日本の文化を知ると共に、外国の文化との違いが、子どもたちの生活にどう影響しているかに気づき、言葉の発達に遅れがある子どもと共に楽しめる環境を整えられる工夫を考えます。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「言葉」の内容が理解でき、ことばを育む児童文化財について説明することができる。 2. ことばを育む文化財を使った指導法及び指導案を作成することができる。 3. 児童文化財の特色と扱いを知り、保育に生かせる。 4. 日本の伝統文化と外国の文化の違いを知り、国際的な視野を持って保育活動することができる。 			
テキスト	保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレール館/ISBN:978-4-577-81448-2 幼児連携型認定子ども園教育・保育要領(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレール館 幼児連携型認定子ども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレール館 ISBN:978-4-577-81449-9 幼稚園教育要領(最新版)/文部科学省/フレール館 幼稚園教育要領解説(最新版)/文部科学省/フレール館/ISBN:978-4-577-81447-5			
参考書	絵本の事典/中川素子 他編集/朝倉書店/ISBN:978-4254680225 昔話入門/小澤俊夫/さようせい/ISBN:978-4324052167 絵本を読む 新装版/松居直/日本エディタースクール出版部/ISBN:978-4888883412 保育における子ども文化/松本峰雄編著/わかば社/ISBN:978-4907270100 新訂事例で学ぶ保育内容 領域言葉/無藤隆監修、宮里暁美編/明文書林/ISBN:978-4893472595 演習 児童文化/保育内容としての実践と展開/小川清美/明文書林/ISBN:978-4893471444			
方法	授業の内容、課題や提出物に関する学生からの疑問点や質問については、授業内で振り返り等の時間を設定し学びを深めるために教員が説明していきます。			
評価	定期試験60%、授業・課題・提出物に取り組み姿勢20%、課題・提出物20%で総合的に評価します。			
学習の目標	日本の児童文化は、非常に豊かな児童文化財を持っています。それらは、日本語という独特の美しく繊細な言語によって育まれてきました。その伝統の豊かさ、美しさを知り、グローバル時代を生きていく子ども達の言語を豊かに育むことが出来るように、保育者自身が感性を磨き、子どもたちの関わりの中で使っていくように、共に楽しむことにより、子どもは言葉を獲得していきます。児童文化財を通して、子どもたちの言葉を引き出す方法を考えたいと思います。まず、あなたたちが楽しむこと、ワクワクすることが大切です。積極的な授業参加を望みます。			
その他の事項	初回の授業時に曜日と時間をお伝えします。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。			

授業内容進行表

1回	<ことばの機能と言葉の発達> 入園とことば、幼児とことば 乳幼児期のことばの発達と保育者の役割
2回	<領域(言葉)のねらい及び内容> 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「言葉」の目的と内容 児童文化財とは。児童文化財を働かせる指導案の作成法
3回	<ことばを育てる児童文化財①> わらべ唄、唱歌 想像力と絵本
4回	<ことばを育てる児童文化財②> ごっこ遊び、劇あそび 紙芝居の歴史と扱い、実演
5回	<ことばを育てる児童文化財③> ペーパーアート DVD 視聴 シアター (パネルシアター・エプロンシアターなど)
6回	<ことばを育てる児童文化財④> 文字と音韻、ことばあそび
7回	<小学校国語につながる言葉の力> おはなし、文字環境と小学校国語につながる教材 日本語の美しさと伝統の豊かさを楽しくも感性と文化
8回	<グローバル時代における子どもの文化、共に楽しむ意識> グローバル時代を生きていく子どもと多文化共生 言語に遅れがみられる子どもと共に楽しくも意識と方法 学習のまとめと振り返り
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	

【定期試験】(有) 無

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
子どもの指導法「言葉」	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	長谷雄一
実務経験の概要				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、言葉を書く保育者の言葉のあり方、関わり方などについて学習を深めることにも、日本語の持つ美しさ、伝達の豊かさを知り、言語教材に生かす方法を学びます。乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得されるのかを学び、人とのふれ合いや環境をふまえて、より良い発達のための関わりを考察します。 2. 子どもが自ら言葉が発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解します。 3. 乳幼児期の言葉を書く児童文化財(絵本・紙芝居・シアター類・お話し・言葉遊び・文字体験)などの特色や扱いを学びます。 4. 子どもの表現や行動に表れる心情や思考をくみ取り、より良い発達をサポートできる方法を学びます。 5. 言葉の障がい、外国にゆかりのある子どもについて問題点を認識し、配慮、支援のあり方を理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉の発達過程を学び、簡単に説明できる。 2. 子どもが経験したことや考えたことを楽しく会話し、相手の話す言葉や態度を聞き取る意欲や態度を育てるための関わり合い方を理解することができ、 3. 子どもが生活や遊びを通して、日本語の美しさや伝達の豊かさを感知取れるようにする工夫を保育者に生かせる。 4. 子どもが豊かな言葉を書く文化財の特色を知り、それらの用い方を理解し、実演することができ、 5. 言葉の問題があったり、遅れがあったりする幼児、また外国にゆかりのある子ども等について理解を深め、個々に応じた配慮、支援があることを知ります。 			
テキスト	随時、配布します。 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレール館/ISBN:978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレール館/ISBN:978-4-577-81449-9 幼稚園教育要領解説(最新版)/文部科学省/フレール館/ISBN:978-4-577-81447-5			
参考書	事例で学ぶ保育内容 領域言葉/無藤隆監修 宮里暁美編/西林書林/ISBN:978-4893472595 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレール館/ISBN:978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレール館/ISBN:978-4-577-81449-9 幼稚園教育要領解説(最新版)/文部科学省/フレール館/ISBN:978-4-577-81447-5			
評価方法	授業の内容、課題や提出物に関する学生からの疑問点や質問については、授業内で振り返り等の時間を設定し学びを深めるために教員が説明していきます。			
評価指標	定期試験50%、授業・課題、提出物に取り組み姿勢20%、提出物・実践30%により総合的に評価します。			
学習の留意点	言語獲得期の子どもにとっても、そのモデルとなる保育者の言葉への感覚や表現は、極めて重大です。あなた自身が、日本語の美しさ、伝達の豊かさを知り、感銘を置くことが大切です。そして、子どもたちが心から会話を楽しみ、相手の話を聞くこととする意欲や態度を育み、それぞれの個性の違いに気づけるような心を育むにはどうすれば良いか考えてみてください。また、言葉を書く文化財を演じる時は、心から楽しんでください。積極的な授業参加を望みます。			
その他の事項	初回の授業時に曜日と時間をお伝えします。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。授業の進行に関して、都合により入れ替えることがあります。			

授業内容進捗表

1回	<幼児教育と言葉> 言葉とは何か、人間とことば。乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり生活と言葉(聞く、話す、読む、書く)、言葉環境としての保育者の言葉のあり方
2回	<乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価> 領域「言葉」指導上の留意点と評価 0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み
3回	<言葉を豊かに育む活動(1)> 言葉遊びに関する教材の活用(情報機器を利用した近田例の紹介を含む)からわらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育体験と振り返り
4回	<言葉を豊かに育む活動(2)> 言葉から文字へ、文字による環境 文字体験教材としてのカルタ・双六・絵カード等の制作(情報機器活用による制作例の紹介を含む)及び模擬保育体験と振り返り
5回	<保育者と言葉のあり方> 言葉の遅れや障がいをもちも乳幼児の根え方と支援 外国の子どもの対応
6回	<言葉を豊かに育む活動(3)> 言語教材としての絵本の意義 絵本と、デジタル教材と保育現場の実践及び言語教材を用いた指導案について
7回	<言葉を豊かに育む活動(4)> 絵本、お話等の実践と情報機器の利用について 絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育体験と振り返り
8回	<言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携> 学習のまとめ
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
【定期試験】(有)・無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの指導法「言語表現」	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	長 谷 雄 一
実務経験の概要				
子どもの言語発達を促す児童文化財(絵本・紙芝居・シアター類・ことは遊び・子どもの歌など)について学び、文化財の複製や扱いが上手にできる技術を身に付けます。子どもの年齢(月齢)に即した言語表現を知り、その表現をより良く発展させられる保育の構築を目指すための基本姿勢を学びます。自らが作品を創り、楽しみ、言語による表現ができるようになります。				
授業概要				
1. 児童文化財(絵本・紙芝居・シアター類・伝承遊び・子どもの歌など)の特徴と演じ方を学びます。 2. 子どもの年齢(月齢)に即した言語表現を知り、適した文化財の使用や表現法を学び、実演してみます。 3. 情報機器の使用によって新しい児童文化財の創作の幅を広げ、保育に役立つ方法を考えます。 4. 児童文化財を創作し、表現するための指導案を作成でき、演じられるようになる。自己評価、相互評価をします。				
学習成果				
1. 子どもの言語表現についての知識を学び、児童文化財の必要性、特色が説明でき、演じることができ。 2. 一つの教材を多面的に捉え、工夫、創作することから、こどもの言語表現活動に役立つ力を身につけることができる。				
テキスト				
随時、配布します。 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレールベル館/ISBN:978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレールベル館/ISBN:978-4-577-81449-9 幼稚園教育要領解説(最新版)/文部科学省/フレールベル館/ISBN:978-4-577-81447-5				
参 考 書				
ことはと表現力を育む児童文化(第2版)/川勝泰介、浅岡靖夫、牛駒幸子編著/萌文書林 ISBN:978-4893472779 演習 児童文化/保育内容としての実践と展開/小川清美/萌文書林/ISBN:978-4893471444 うたってかたんたん パネルシアター/古宇田純純監修/ひかりのくに/ISBN:978-4564608834 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレールベル館/ISBN:978-4-577-81448-2 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレールベル館/ISBN:978-4-577-81449-9				
評価方法				
授業の内容、課題や提出物に関する学生からの疑問点や質問については、授業内で振り返り等の時間を設定し学びを深めるために教員が説明していきます。				
評価				
定期試験60%、授業・課題、提出物に取り組み姿勢20%、課題・提出物20%により総合的に評価します。				
設備				
単に児童文化財を複製して演じるだけでなく、同じ絵人形を使いながらも子どもの年齢(月齢)ごとの言語表現に合わせた言葉運びや表現ができるようになります。				
できるだけ、時間がかからない絵人形制作の工夫や、情報機器や便利グッズを使った作業方法を紹介しますので、柔軟な発想で制作に取り組み、楽しく演じて表現してください。				
その他				
初回の授業時に曜日と時間をお伝えします。事前に、「melly」を使って予約を取ってください。				
制作のためにハサミ、油性マジック、アクリル絵の具、筆、色紙、画用紙、端切れ、廃材などが必要になります。文具・材料費500円程度を心づもりしておいてください。Pペーパーやパネルシアター舞台などは大学で用意します。				

授業内容進捗表

1回	<授業ガイダンス> 保育と言語表現 保育所保育指針・幼稚園教育要領の中の位置づけ
2回	<保育現場における言語表現> ことばと表現力を育む児童文化財
3回	<児童文化財の種類1> 絵本 絵本の選書 読み聞かせ 絵本から保育への展開 諸外国の絵本
4回	<児童文化財の種類2> 葉話 お話の世界
5回	<児童文化財の種類3> 紙芝居 ことは遊び カルタ しりとり等
6回	<児童文化財の種類4> シアタースタイル ペープサート 紹介
7回	<児童文化財の保育への展開> 事例紹介
8回	<児童文化財の制作> まとめ グループワーク
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
【定期試験】(有) 無	